乙女たちの戦車道ライフをサポートする専門誌

月刊戦車道 別冊

［完全保存版］第1回戦・全8試合 出場校の活躍と戦いを完全網羅！

第41回 冬季無限軌道杯 大特集号



第1回戦から第2回戦へ

激戦を制し、無限軌道杯 ベスト8が出揃う！


大洗食品
※この広告は、冗談です。人物や団体などとは関係ありません。実際の商品は商品状況により、売ってたり・売ってなかったりします。
ボコカレー
パワー
10,000,000,000,000,000倍
(1京)
アップだぜ！
茨城県産
じゃがいも
にんじん
たまねぎ
使用
茨城県産やさいに
こだわった渾身の味
じょのくち
(中辛)
保存料・合成着色料
不使用
おいら達の“レーション”は、これ！

月刊戦車道 別冊

第41回冬季無限軌道杯 大特集号

第1回戦・全8試合 出場校の活躍と戦いを完全網羅！

イラスト
表紙／原画：伊藤岳史　仕上：原田幸子　特効：古市裕一
美術：平柳 悟（アートスタジオ・ザオ）監修：杉本 功

P4-5／原画：伊藤岳史　仕上：原田幸子　特効：古市裕一
美術：平柳 悟（アートスタジオ・ザオ）
ＣＧ：橋本豊和（グラフィニカ）監修：杉本 功、柳野啓一郎

P10／原画：伊藤岳史　仕上：原田幸子　特効：古市裕一
ＣＧ：橋本豊和　美術：平柳 悟（アートスタジオ・ザオ）
監修：杉本 功、柳野啓一郎

P14／原画：伊藤岳史　ＣＧ：橋本豊和（グラフィニカ）
仕上：原田幸子　特効：古市裕一
美術：平柳 悟（アートスタジオ・ザオ）
監修：杉本 功、柳野啓一郎

P18／原画：伊藤岳史　ＣＧ：橋本豊和（グラフィニカ）
仕上：原田幸子　特効：古市裕一
美術：平柳 悟（アートスタジオ・ザオ）
監修：杉本 功、柳野啓一郎

P22／原画：伊藤岳史　ＣＧ：橋本豊和（グラフィニカ）
仕上：原田幸子　特効：古市裕一
美術：平柳 悟（アートスタジオ・ザオ）
監修：杉本 功、柳野啓一郎

P26／原画：伊藤岳史　仕上：原田幸子　特効：古市裕一
美術：アートスタジオ・ザオ　監修：杉本 功

P30／レイアウト：伊藤岳史　ＣＧ：橋本豊和
美術：平柳 悟（アートスタジオ・ザオ）
監修：杉本 功、柳野啓一郎、原田幸子

P34／原画：伊藤岳史　仕上：原田幸子　特効：古市裕一
美術：アートスタジオ・ザオ　監修：杉本 功



第41回冬季無限軌道杯1回戦　全試合解説

第2試合
大洗女子学園(茨城)
×
BC自由学園(岡山)





この夏に行われた第63回戦車道全国高校生大会は、20年ぶりに戦車道の活動を復活させた大洗女子学園が、強豪中の強豪である黒森峰女学園に勝利を収めて大番狂わせの初優勝を遂げた。その衝撃と興奮も冷めやらぬまま、この冬に中断前から数えて第41回となる無限軌道杯が20年ぶりに開催されることになった。本誌記者の下馬評では、優勝の本命は夏の全国大会9連覇という不滅の実績を持つ黒森峰女学園だ。全国大会では2回続けて不覚を取ったが、今回はその雪辱が期待される。対抗馬の一番手は、全国大会の優勝校である大洗女子学園だ。同校の戦力は他の強豪校と比較すると十分とは言えないが、それをおぎなって余りある優れた戦術能力がある。また、その前の全国大会の優勝校であるプラウダ高校や、古豪の聖グロリアーナ女学院も、虎視眈々と優勝カップを狙っている。高校戦車道界に覇を唱える新たな王者は一体どの学校なのか？ それを占う無限軌道杯の第1回戦計8試合が先日行われた。その熱戦の模様をお伝えしよう。

編集部注：各校隊長の意向により、一部検閲がかかっている場合があります。ご了承下さい。

大洗女子学園（茨城）

Oarai Girls' High School

戦力分析



大洗女子学園の出場車輌を見ると、夏の全国大会の決勝戦での出場車輌に加えて、新たにＭｋ.Ⅳ戦車が加わった。とは言っても、この戦車は第一次世界大戦中に開発された世界最初の近代的な戦車（タンク）であるＭｋ.Ⅰの改良型に過ぎない。本来は塹壕突破用の兵器であり、対戦車戦闘用ではないのだ。５７ミリ砲を２門搭載しているので、機関銃搭載の豆戦車（タンケッテ）や軽戦車よりは火力が大きいものの、装甲は薄く、なにより速度が遅い（大洗女子学園のＭｋ.Ⅳには操縦系統などに手が加えられているようだが）。したがって、戦力的には、夏の全国大会の決勝戦からほとんど上積みが無いと見て良い。

攻撃力の中心は、８８ミリ砲搭載のポルシェティーガーと、長砲身の７５ミリ砲搭載のⅣ号戦車Ｈ型、Ⅲ号突撃砲Ｆ型、ヘッツァーだ。ただし、回転砲塔を持たないⅢ突Ｆ型とヘッツァーは、待ち伏せは得意だが、動きながら撃ち合う機動戦は苦手。したがって、大洗女子学園としては、これらの車輌の火力をうまく活かせるような状況に持ち込みたいところだ。

使用車輌数：９輌

Ⅳ号戦車Ｈ型×１
ポルシェティーガー×１
Ⅲ号突撃砲Ｆ型×１
ヘッツァー×１
三式中戦車×１
Ｍ３中戦車リー×１
Ｂ１ｂｉｓ×１
八九式中戦車甲型×１
Ｍｋ.Ⅳ戦車×１



注目戦車：ポルシェティーガー

もっとも注目される戦車はポルシェティーガーで、大洗女子学園の車輌の中で唯一、ＢＣ自由学園の主力で９０ミリ砲搭載の重戦車であるＡＲＬ４４に対抗できるだけの火力と装甲を備えた戦車だ。その機関系は、エンジンで発電機を駆動して、その電力で電動モーターを動かす珍しい方式だが、大洗女子学園の車輌は高校戦車道のルールに規定が無いことを利用して改造が加えられており、機動力が大幅に向上している。ただし、高速を発揮できるのはごく短時間に限られているようで、先だっての大学選抜との試合ではすぐに火災が発生している。いずれにしろ戦車道連盟は、試合への影響が少ないと見ているためか、ルール改正の動きは今のところ無い。







河嶋 桃 隊長 試合前コメント

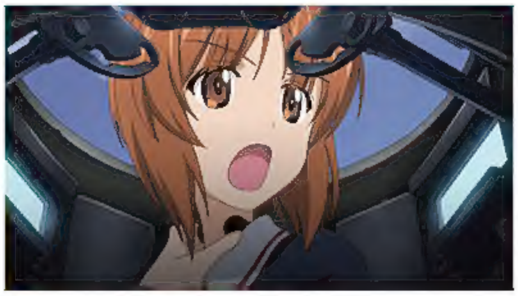
おい、西住、西住はどこだ、インタビューだぞ。なに、私が隊長？ あ、そうか、そう言えばそうだったな……。ゴホン、我々は大洗女子学園の伝統と歴史を次世代に繋ぐために、今回この「無限軌道杯」に参戦することにした。二度と廃校などという憂き目に合わぬよう、我が校と戦車道を盤石なものとするのだ！

注目選手



隊長 河嶋 桃

もう一人の注目選手は、今回隊長となった河嶋桃選手。元生徒会広報という人脈の広さと、クールな風貌から想像される冷静さが抜擢の理由であろう。ここ一番の局面で活躍してきたヘッツァーの砲手という経歴からも腕は窺える。



副隊長 西住みほ

なんと言っても、無名の初参加校を全国大会優勝まで持ち込んだ西住みほ副隊長だろう。今回は卒業する三年生への花道なのか「副」隊長となっているが、その指導力と牽引力、そして堅実な西住流とは思えない奇策が楽しみだ。

BC自由学園（岡山）

BC Freedom Academy

戦力分析



BC自由学園の主力は、長砲身の９０ミリ砲を搭載し、車体前面で１２０ミリの重装甲を誇るＡＲＬ４４だ。ただし、足回りは古臭く、機動力が低いという欠点がある。

それを補うのが、快速の騎兵戦車のソミュアＳ３５で、少なくともスペック上は同時期に登場した戦車の中でもっとも優秀、と評される。ただし、砲塔が１名用なので（一部では通信手が装填動作を補助できる１名半用砲塔とも呼ばれているが）、車長が砲手や装填手を兼任しなければならず戦闘の指揮に専念できないという欠点がある（その欠点はルノーＦＴも同じ）。そのため、ＢＣ自由学園では、砲塔が１名用の戦車では、車長が砲塔後部のハッチから身を乗り出して（いわゆる箱乗り）戦闘の指揮に専念する一方で、本来は通信手である乗員や追加した乗員に砲手をまかせることが少なくない。

いずれにしても、ＢＣ自由学園としては、ＡＲＬ４４の長砲身９０ミリ砲の有効射程の長さをうまく活用したいところだ。

使用車輌数：10輌

ルノーＦＴ×1
ＡＲＬ44×5
ソミュアＳ35×4



注目戦車：ＡＲＬ４４

ＢＣ自由学園の戦車では、やはりＡＲＬ４４が注目される。量産が始められたのは第二次世界大戦後なので、その意味では戦後型の戦車なのだが、開発は第二次世界大戦中に始まっており、試合への出場を認められている。高校戦車道のルールの盲点を突いたような車輌だ。少なくともスペック上は、火力や防御力は優秀で、とくに主砲の９０ミリ砲はドイツのＶ号戦車パンターに搭載されている超長砲身の７５ミリ砲を超える命中精度を持つ、と評価されている。ただし、足回りなどの信頼性が低かったとも伝えられており、戦後のフランス軍での運用もごく短期間に終わっているので、実用上何らかの問題があったことも考えられるのが不安点だ。



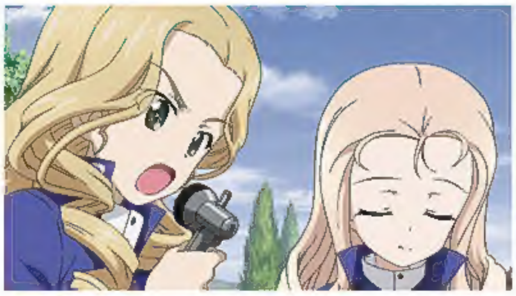




マリー隊長 試合前コメント

これから薔薇風呂に入るから、試合の後でもいいかしら？　え、５分？　あらゆる無駄の中でもっとも咎められるべきは、時間の浪費なのよ。なにより５分あればケーキが２個食べられるじゃない。薔薇風呂に入れなくなっちゃうから、これでいいかしら？

注目選手



隊長車操縦手 祖父江

それ以外では安藤、押田の両選手に注目、と言いたいところだが、ここはあえて隊長車の操縦手である祖父江選手をあげたい。速度も航続距離も不足している上、２人定員に３人搭乗予定のルノーＦＴをどのように運用するか、それ次第で勝負が大きく動く可能性がある。



隊長 マリー

ＢＣ自由学園では、まずマリー隊長が注目される。政治力を発揮してＡＲＬ４４を入手し、戦力を揃えてきた。注目すべきはその政治力で、「他校と戦う前に、内部の対立で自滅する」とまで言われる校内をまとめられるかにかかっている。

試合展開

試合前

この試合に限っては、話は試合開始前の組み合わせ抽選会までさかのぼる。BC自由学園は、ここで夏の全国大会の優勝校である大洗女子学園と1回戦で当たることが決まった。すると、同校の付属中学校から進学したエスカレーター組の押田選手と、同校に高校受験を経て入学した外部生の安藤選手が、全国の戦車道関係者が居並ぶ中で、大声をあげてののしり合う、という珍事を見せたのだ。

しかも、試合の開始直前には、押田部隊のARL44と、安藤部隊のソミュアS35が、車体をぶつけ合ったり撃ち合ったりしている（さすがに命中弾は無かったが）。これを見たスタンドの観客もあきれ果てて「これじゃあ勝負にならないだろ」「BCはまた1回戦負けか」「入場料返せ！」といったヤジが飛ぶ始末。

付け加えて試合後に本誌が独自に入手した情報によると、大洗女子学園も、ルールでも認められている試合前の偵察活動によって、BC自由学園の戦車道チームが分裂状態にあると見ていたようだ。





前半戦

大洗女子学園は、試合序盤に慎重を期して八九式中戦車甲型とポルシェティーガーを偵察に出すと、BC自由学園の安藤部隊と押田部隊が別々に移動しているのを発見。BC自由学園のフラッグ車と護衛の1輌は、前方の丘の上にいると思われた。

そこで大洗女子学園の河嶋隊長は、その丘のさらに後方の川を渡り、裏に回り込んで橋から奇襲する作戦を立案。偵察に出した2輌をのぞく残りの7輌は、浅瀬を渡って橋に向かった。

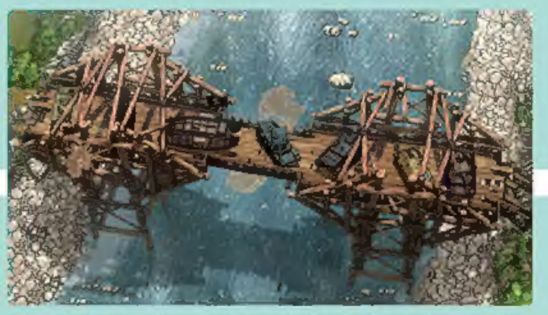
しかし、BC自由学園のマリー隊長は、大洗女子学園主力のこうした動向を掴んでおり、安藤部隊と押田部隊に集結を指示。大洗女子学園の主力が橋を渡り始めたところで橋の前後を砲撃し、身動きが取れなくなったところを三方から取り囲んだ。

この絶体絶命のピンチで、大洗女子学園の西住みほ選手は「因幡の白兎」作戦を発動し、Mk.Ⅳの長い車体をスロープ代わりに対岸の河原に脱出。駆けつけた八九式やポルシェティーガーとともに、安藤部隊と押田部隊を前後から挟み撃ちにするかたちになった。

ここでBC自由学園のマリー隊長は思い切り良く撤退を指示。第1ラウンドは、BC自由学園が見事な連携で、大洗女子学園に一泡吹かせたのだ。



大洗女子学園は、八九式やポルシェティーガーの偵察でBC自由学園の動向を掴み、フラッグ車が中央の丘にいると読んで、その後方の川の浅瀬を渡って橋からの奇襲を狙った。



大洗女子学園の主力は、橋の上で身動きが取れなくなってしまった。BC自由学園は、エスカレーター組と外部生の仲が悪い芝居を続けて大洗女子学園をだまし、見事に罠にはめたのだ。

後半戦〜決着

意気上がるBC自由学園は、移動途中の大洗女子学園の砲撃も相手にせず、ボカージュ地帯に布陣した。これに対して大洗女子学園は、ポルシェティーガー、M3中戦車リー、Mk.ⅣでBC自由学園の配置を偵察。さらにBC自由学園の注意を惹きつけつつ、B1bisをボカージュの奥深くに回り込ませた。

B1bisの砲塔はソミュアとそっくり（旋回リング径など細部は異なる）で、しかも大洗女子学園は砲塔を塗りかえており、車体部が見えないボカージュ越しに瞬時に判別することはむずかしい。そのため、B1bisに砲撃された押田選手は、安藤部隊のソミュアに砲撃されたものと勘違いして同士討ちが始まった。試合の序盤では見事な連携を見せたBC自由学園だが、やはり仲が悪かったのだ。結局、マリー隊長が仲裁するまで計4輌が白旗をあげて、観客席で見ていた生徒まで試合そっちのけで喧嘩を始める始末……。

その後、BC自由学園は、残りの車輌で大洗女子学園のB1bisを撃破し、押田選手と安藤選手も和解。ボカージュ地帯を脱出して仕切り直そうとするが、数で優る大洗女子学園に先回りされて次々と撃破されてしまう。それでもBC自由学園は反撃を続けて、最後はフラッグ車のルノーFTに乗るマリー隊長自ら大洗女子学園のフラッグ車のヘッツァーを追った。しかし、Mk.Ⅳに進路をふさがれて万事休す。試合は大洗女子学園の勝利に終わったが、終盤のBC自由学園の健闘ぶりに会場から拍手が沸き起こった。



カモさんチームのB1bisは、BC自由学園のソミュアS35に近い色を砲塔にスプレーして校章を消し（車体の校章は残っている）、後方から砲撃して同士討ちを誘った。



BC自由学園のマリー隊長は、ボカージュ戦の序盤でエスカレーター組と外部生が自主的に協力している間は直接指揮をとらず、悠然とケーキを食べていた。しかし、同士討ちが始まるとすぐさま仲裁に乗り出し、最後は自ら相手のフラッグ車を狙った。

試合結果

○ 大洗女子学園（茨城）

×

× BC自由学園（岡山）

ターニングポイント



ボカージュ地帯に布陣したBC自由学園。対する大洗女子学園は、BC自由学園の配置を掴むと、砲塔を塗り直したB1bisをボカージュの奥深くに進出させた。そのB1bisは1輌も撃破していない（取材によると、あえて撃破しない方針だった）が、その撹乱作戦によってBC自由学園は仲間割れし、戦力のほぼ半分を失った。この時点で試合の勝敗はほぼ決したと言えるだろう。

試合のポイント

試合を振り返ってみると、まず一つ目のポイントは、前半戦でBC自由学園の戦車が、大洗女子学園の主力を橋の上で釘付けにした時に1輌も撃破できなかったことだ。橋の支柱が照準のさまたげになったにしても、とくに長砲身の90ミリ砲を搭載しているARL44が、ただの1輌も白旗をあげさせることができなかったのは不思議に思える。しかし、夏の全国大会では、BC自由学園はARLを出場させていない（本誌「第63回戦車道全国高校生大会総決算特別号1」参照）。つまり、新規導入の車輌であり、乗員が不慣れだったことも理由の一つとしてあげられるだろう。

二つ目のポイントは、試合後半でBC自由学園がボカージュ地帯での戦いを選んだことだ。戦術的には、ソミュアを囮に使って、ARL44搭載の90ミリ砲の射程の長さを活かして狙い撃ちにするのが有利だ。それでも、生け垣に遮られて見通しが効かず接近戦にならざるを得ない地形を選んだのは、外部生だけを囮に使うような作戦では分裂の原因になりかねないことと、接近戦に自信を持っていたからだろう。実際、BC自由学園はボカージュ地帯での戦いだけで、実に9輌を撃破している。問題はそのうちの4輌が味方だったことだ。これさえなければ、大洗女子学園と互角以上の戦いができたかもしれない。





両校隊長試合後コメント

■BC自由学園：マリー

せっかくもう少しで革命成功できたのに……。でも、なかなか良い試合だったわ。干しいもさんたちもなかなかやるわね。あーあ、こんな話をしてるとお腹が空いてきちゃうじゃない。ケーキのおかわりはまだかしら？

■大洗女子学園：河嶋 桃

えー、あー、はい、BC自由学園は強敵でした。正直少し油断していたことは否めません。隊長としてふがいない限りです。ですが運良く勝ち残ることができました！ 私のため……いや、大洗の未来のため、次も絶対勝利します！

ワンポイントコラム　BC自由学園の戦車

文：田村尚也

BC自由学園はフランスをリスペクトしている学校で、戦車道チームもフランス製の戦車を使っている。その中でも、とくにフランスへのリスペクトが感じられるのは、同国製のルノーFT軽戦車を使っている点だ。

このルノーFTは、世界で初めて全周旋回式の砲塔を搭載して量産された戦車だ。また、前方に操縦手席、その後方に回転砲塔を載せた戦闘室、後部に機関室という基本レイアウトを採用している。そして現代の最新型の戦車も、そのほとんどがルノーFTと同様の基本レイアウトを採用しており、回転砲塔を備えている。つまり、ルノーFTは、戦車の基本レイアウトを確立した画期的な戦車なのだ。

とは言うものの、ルノーFTは第一次世界大戦中に登場した旧式戦車だ。一応火砲を搭載しているので、小口径の機関銃を搭載している豆戦車や軽戦車よりは火力は大きいとはいえ、短砲身の37ミリ砲の装甲の貫通力は非常に低い。装甲は、それらの豆戦車や軽戦車と大差なく、最高速度を含む機動性は（同時期の他の戦車よりもはるかに優れていたが）第二次世界大戦中の戦車と比較するとやはり劣っている。

それでも、BC自由学園の戦車道チームは、無限軌道杯の1回戦で、このルノーFTをフラッグ車として出場させているのだ。これを見ても、同校の選手たちがフランスで開発されたこの歴史的な戦車に誇りを持っていることが感じられる。これも同校なりの戦車道のあり方と言えるだろう。

ルノーFT
写真提供：グランドパワー（ガリレオ出版）



第1試合 知波単学園（千葉）×コアラの森学園（鳥取）



第41回無限軌道杯の第1試合は、知波単学園とコアラの森学園の試合となった。知波単学園は、過去にはベスト4に進出した実績もあるのだが、このところは突撃一本槍の単調な戦術ばかりで1回戦負けが続いている。夏の全国大会でも、1回戦で黒森峰女学園の主力が陣取る高地を正面から攻撃し、突撃をかけて全車を撃破されるという一方的な敗北を喫した。また、コアラの森学園も、夏の全国大会の1回戦では、戦意の高さが裏目に出てヴァイキング水産高校の囮作戦に引っかかり、森の中から側面に奇襲攻撃を受けて混乱。さらに退路も遮断されてフラッグ車を撃破され、こちらも1回戦負けに終わった。要するに、知波単学園もコアラの森学園も、ともに戦術能力の面で大きな問題を抱えているのだ。それでも、両校とも戦意だけは充分すぎるほど高いので、互いに正面からぶちかます可能性が高いだろう。複雑巧緻な戦術で観客をうならせるような玄人好みの戦いにはならないだろうが、個々の戦車は非力でも正面から正々堂々とぶつかり合う力勝負が期待できそうだ。

編集部注：各校隊長の意向により、一部検閲がかかっている場合があります。ご了承下さい。

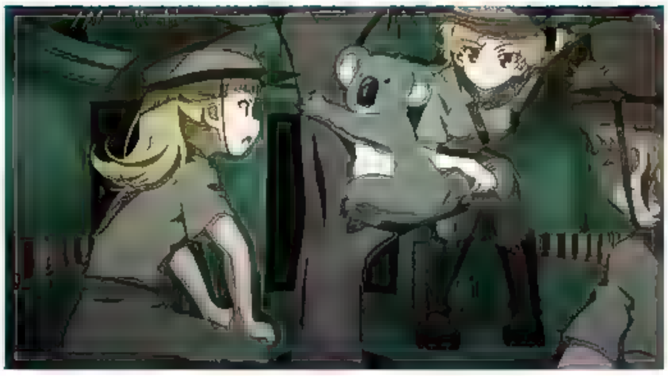


コアラの森学園（鳥取）

使用車輌数：10輌

センチネルAC I×3
M3中戦車×2
M3軽戦車×5





戦力分析

コアラの森学園の数の上での主力は、アメリカ製の軽戦車であるM3スチュアートだ。軽戦車と言っても長砲身の37ミリ砲を搭載しており、前面装甲は九七式中戦車系列より厚いので、短砲身の57ミリ砲搭載の九七式中戦車（旧砲塔）が相手なら互角以上に戦える。

アメリカ製の中戦車であるM3リーは、長砲身の37ミリ砲と短砲身ながら75ミリ砲の両方を搭載しており、装甲はM3スチュアートより厚い（付け加えると大洗女子学園も同一車種を保有している）。そのため、長砲身の47ミリ砲搭載の九七式中戦車（新砲塔）が相手でも互角以上に戦える。

さらにオーストラリア製の巡航戦車センチネルAC Iは、イギリス製のマチルダIIに匹敵する火力と、M3リーを上回る厚い装甲を備えている。

ただし、どの戦車も側面装甲は比較的薄く、九七式中戦車（新砲塔）が搭載している長砲身の47ミリ砲には遠距離からでも貫通されてしまうので、相手に側面を不用意にさらさないことが重要だ。

注目戦車：センチネルAC I

コアラの森学園の戦車でもっとも注目されるのは、センチネルAC I巡航戦車だ。第二次世界大戦中にオーストラリアで開発された戦車で、生産数は65輌。巡航戦車といっても装甲は最大65ミリとけっこう厚く、速度は38km/hと決して速くない。主砲は、マチルダIIと同じ2ポンド砲（口径40ミリ）を搭載している。

注目選手

副隊長 蕨



注目は代々謎のベールに包まれた隊長、と言いたいところだが、詳細が不明なので、実質的な隊長である蕨副隊長に注目したい。難解かつ高度な言い回しと噂される隊長命令を、格調高さを残しつつもチーム全体に分かるように伝えられる蕨副隊長の能力は筆者も一度実際に見てみたいものである。



コアラの森学園隊長 試合前コメント

聡明なる我らが隊長はこう言っておられる。勇猛果敢なる我らがコアラの森学園生は、どこにも負けないだけの突進力を持っているが、今回はそれを敢えて押し殺し、知波単学園の突撃を王者のように受け止め、見事粉砕してみせよう、と。

試合展開

序盤戦

今回の試合会場は、乾燥した起伏の多い丘陵地。灌木が多少生えている程度で、森や建物などの大きな遮蔽物は無いが、高低差のある地形なので、位置取りや接近経路によっては、待ち伏せや敵の射線から隠れて接近することも可能だ。観客席の知波単学園の応援席では、もはや同校名物とも言える、特注の長ラン姿も勇ましい応援団長と白鉢巻をキリリと締めた知波単学園の応援団員のリードにより、三三七拍子などの古式ゆかしい応援が始められていた。そして、それを懐かしそうに眺めているうちに昔の血が騒ぎだした老人たちや、硬派で知られる知波単学園応援団の追っかけ集団が見守る中、試合は始められた。試合前の大方の予想では、戦意旺盛なコアラの森学園と、突撃を伝統とする知波単学園の対戦なので、開始早々に正面から激突するものと見られていた。

しかし、コアラの森学園の戦車は、予想に反して、丘の稜線を利用して車体部を隠し、被弾面積を小さくした有利な態勢で知波単学園の突撃を待ち受ける、という意外な作戦を採用した。同校は、夏の全国大会ではヴァイキング水産高校の囮作戦に引っかかっており、それを反省して作戦の基本方針を大きく変えたのであろう。

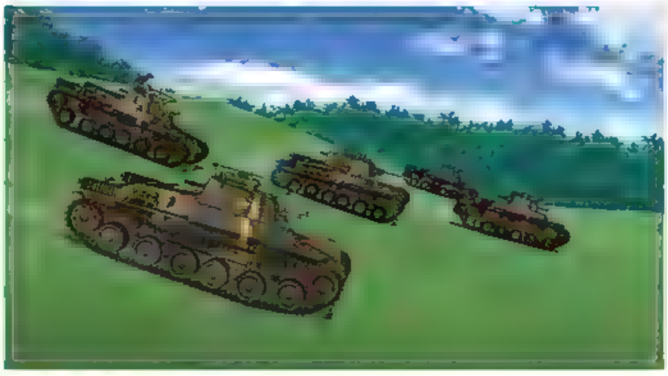
中盤戦

対する知波単学園は、九七式中戦車（新砲塔）3輌と同（旧砲塔）3輌の計6輌が、列横隊を組んで、コアラの森学園の正面から丘陵地を越えて前進。そのまま、同校伝統の突撃を開始するものと思われた。

これを見た知波単学園の応援団長は、すかさず朗々たる美声で「応援歌ああああ～!!」と指示。応援団長は渾身の力を込めて左右の正拳を交互に突き出し、応援団員はたたみ六畳分ほどの巨大な応援旗を豪快に振り回す。知波単学園側の観客席の興奮は最高潮に達した。

ところが、前進していた知波単学園の主力の6輌は、稜線と稜線の間の窪地に入って姿が見えなくなると、そのまま行方をくらました。

知波単学園（千葉）



使用車輌数：10輌

九七式中戦車(新砲塔) ×5
九七式中戦車(旧砲塔) ×4
九五式軽戦車×1



戦力分析

知波単学園の出場車輌の主力は、長砲身の47ミリ砲を搭載している九七式中戦車（新砲塔）5輌で、同校の出場車輌の中でもっとも強力な対戦車火力を持っている。とはいえ、コアラの森学園のM3軽戦車には対抗できても、装甲の厚いM3中戦車やさらに厚いセンチネルACⅠ巡航戦車に対抗するのはむずかしい。とくにセンチネルは、前面だと距離200メートル以下の近距離でも装甲を貫通できるかどうかといったところ。ただし、側面なら遠距離からでも貫通できるので比較的容易に撃破可能だ。

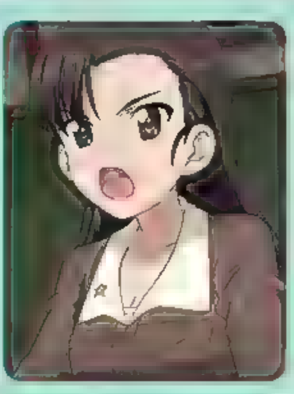
短砲身の57ミリ砲を搭載している九七式中戦車（旧砲塔）4輌は、主砲の威力が小さいので、センチネルやM3中戦車はもちろん、M3軽戦車にも対抗するのがむずかしい。また、1輌だけ出場している九五式軽戦車も、主砲は威力不足だが、小型軽快なので偵察には向いている。

したがって知波単学園の戦車は、コアラの森学園の戦車の側面に回り込むべきなのだが、突撃を伝統とする中でそれができるのかどうかが問題だ。

注目戦車：特二式内火艇

知波単学園は、特にこれといって珍しい車輌を出場させていな[illegible]誌が独[illegible]情報に[illegible]水陸[illegible]、こ[illegible]ら[illegible]は奇[illegible]ありえ[illegible]の地[illegible]ないと見たのか、出場していない。

西 絹代隊長 試合前コメント



伝統と格式は大事なことです。ですがそれ以外にも大切なことがあることを大洗……西住さんから学びました！ まだまだ試行錯誤していますが、この試合、精一杯頑張ります！

注目選手

九七式中戦車車長 玉田



突撃戦術で知られる知波単学園、その中でも一番槍として知られる玉田選手がどのような突撃を見せてくれるかに期待である。勝負はその一点がすべてで、敵味方双方が見惚れるような一番槍が決まれば、チャンスが生まれるだろう。

試合展開

後半戦～決着

この意外な展開に、さっきまで興奮していた観客もあっけにとられて、試合会場は静寂に包まれた。

すると、突如鋭い砲声が立て続けに鳴り響いた。なんと、知波単学園の主力は上面から前進してコアラの森学園に突撃すると見せかけ、その実、谷底を左右に展開して迂回することで、コアラの森学園の側面や背面に回り込み、至近距離から砲撃を開始したのだ。

そもそも知波単学園の選手は、砲撃も含めて練度が高い。今までの試合では突撃一辺倒、その技量を十分に活かせる機会が無かっただけだ。事実、コアラの森学園の戦車は、知波単学園の戦車に装甲の薄い側面や後面を的確に狙い撃たれ、次々と白旗をあげた。

コアラの森学園は、側背から予想外の奇襲を受けてパニック状態となった。どうやら、隊長から的確な指示が出なかったか、指示の伝達が遅れたようだ。

そして、ようやく同校の戦車がモタモタと方向転換を始める頃に、遅れてきた知波単学園別働隊が満を持しての正面突撃を敢行、コアラの森学園を全周から攻撃した。

その猛砲撃の中でわずかに生き残ったコアラの森学園の戦車が反撃を開始。知波単学園の戦車を2輌撃破したが、その直後にコアラの森学園のフラッグ車が撃破されて白旗をあげた。

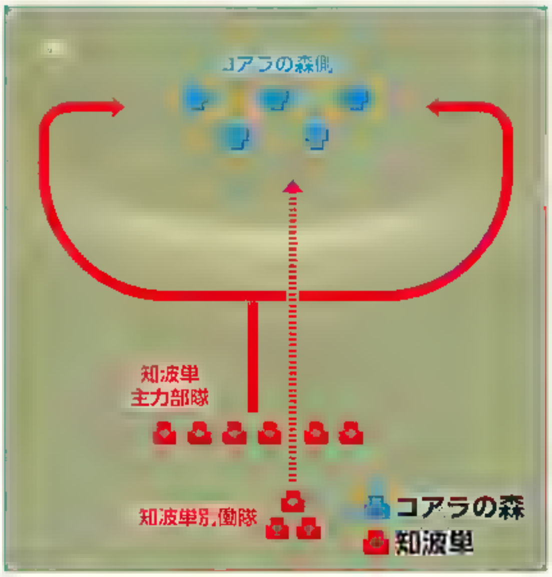
こうして知波単学園は、久しぶりに1回戦を突破したのだ。知波単学園側の応援席が再び熱狂的な興奮に包まれたことは言うまでもない。



試合結果

○ 知波単学園（千葉）
×
× コアラの森学園（鳥取）

ターニングポイント



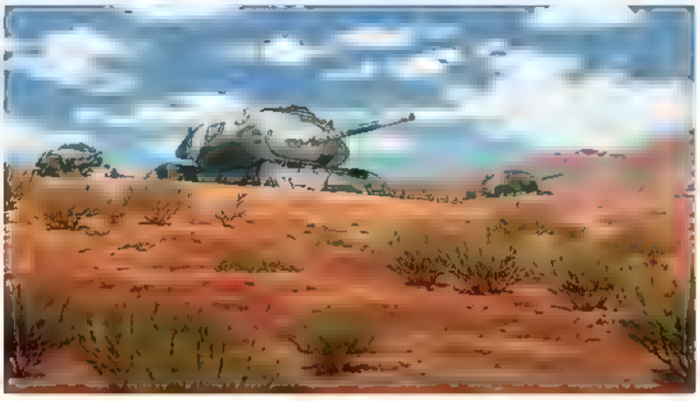
高低差のある地形を活かして丘の稜線の影に車体部を隠し、有利な稜線射撃の態勢で待ち受けるコアラの森学園の戦車隊。これに対して知波単学園は、主力の6輌を正面から一列横隊で接近させた。しかし、この主力は窪地に入って隠れたところで左右に展開し、ひそかにコアラの森学園の側背に回り込み、至近距離まで接近して砲撃を開始。コアラの森学園の戦車は次々と白旗を上げた。

試合のポイント

試合を振り返ってみると、まず意外だったのは、戦意旺盛なことで知られるコアラの森学園が有利な場所での待ち伏せを選択したことだ。もっとも、純粋に戦術面から見れば、それまでの知波単学園の戦術が突撃一本槍だったことを考えると合理的な選択と言える。もし、知波単学園がいつものように正面から突撃する戦術を採用していれば、装甲の薄い知波単学園の戦車を遠距離から一方的に撃破して勝利を収めることができたはずだ。

もう一つ付け加えると、コアラの森学園は、伝統的に突発的事態に際し、隊長からの指示やその伝達が遅い傾向が見られる。しかし、優位な位置から移動せずに射撃を続けるだけであれば、臨機応変な命令を下す必要がない。その点でも、待ち伏せ作戦の採用は妥当なものと言える。

そのコアラの森学園の作戦以上に意外だったのは、知波単学園が伝統の正面からの突撃ではなく、高低差のある地形を利用して相手の側背に回り込んで奇襲をかける、という作戦を採ったことだ。もともと相手の意表を突く作戦を得意としている学校であれば警戒されてしまうが、知波単学園の場合は逆に意外な分、奇襲効果が大きくなり、今回の勝利の大きな要因となったと言える。



両校隊長試合後コメント

コアラの森学園

我らが聡明で偉大なる隊長はこう言っておられる。前を見る時は後ろも見て、右を見る時は左も見て、手を上げて横断歩道を渡りましょう、と。突撃は正面だけではない、常に全方位に集中しなかったのが敗因である、次に会う時は機動戦術の神髄をお見せしよう、と。

知波単学園：西 絹代

今回の試合において、我々は西住さんたちから学んだことを実践するために、鋭意奮闘しました。次は西住さん率いる大洗との試合になりました！ 全国大会の優勝校。よもや勝てるとは思っておりませんが、力の限り当たって砕けたいと思います！

ワンポイントコラム 知波単学園VSコアラの森学園から見る日本戦車

文：国本康文

皆さん「山椒は小粒でピリリと辛い」九五式軽戦車を馬鹿にしてはいませんか？ 戦車戦では小さい37ミリ砲でも、威力は九七式中戦車と変わらないんです。九四式37ミリ戦車砲の初速が秒速574メートル(九四式徹甲弾)と九七式中戦車(旧砲塔)の九七式57ミリ戦車砲の秒速349メートル(九二式徹甲弾)より高初速なためです。そして高初速な分、37ミリ戦車砲の方が57ミリ戦車砲より弾丸の直進性がいいので、よく当たるんです。対M3軽戦車戦は蝶つがいや給気口を狙わなければならないので九四式37ミリ戦車砲の方が有利です。

コアラの森学園の主力のM3軽戦車と九五式軽戦車は78年前に対戦しており、記録上は1勝1敗です。フィリピンに日本の戦車第4連隊が上陸したその日、九五式軽戦車がM3軽戦車と遭遇戦になり、弾は命中しているのに打ち抜けず、やむを得ず前扉の蝶つがいを狙い、また敵戦車に体当たりして勝ったと伝えられるのが最初です。このため当時突貫工事中であった九七式中戦車(新砲塔)を完成させてフィリピンに増援し、早速搭載した47ミリ戦車砲でM3の捕獲戦車の正面を射撃した所見事に貫通し、戦車隊の士気が回復します。2回目はビルマで戦車第14連隊の軽戦車がM3軽戦車と戦い、弾は命中しても貫けず、相手の弾は九五式軽戦車を簡単に貫いて、九五式軽戦車小隊が全滅しています。戦車第14連隊でもM3軽戦車を射撃し、九七式中戦車の57ミリ戦車砲もやはりM3の一番弱い後方でも打ち抜けないのが確認されています。歴史上からも、知波単への九七式中戦車(新砲塔)の参加は必須だったのです。

九五式軽戦車
写真提供：グランドパワー(ガリレオ出版)



第41回冬季無限軌道杯1回戦 全試合解説

第3試合 青師団高校（和歌山）×サンダース大学付属高校（長崎）



強豪校の一角に数えられているサンダース大学付属高校は、夏の全国大会では1回戦で大洗女子学園と当たって敗れたが、冬の無限軌道杯の1回戦では青師団高校と当たる。試合会場は、高低差はあるが森や建物などの遮蔽物がない岩場のステージ。足場は固く機動戦向きだが、一撃を加えたら離脱して遮蔽物に隠れる遊撃戦には向かない地形だ。

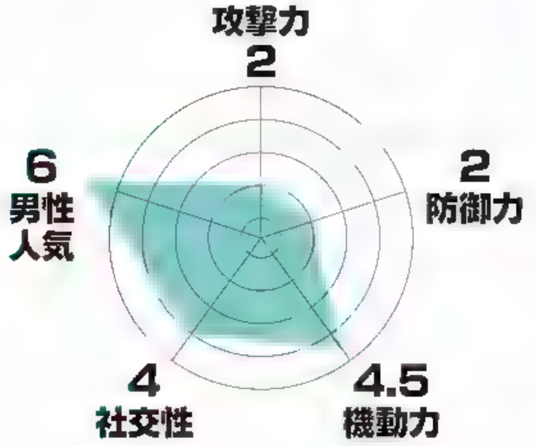
青師団高校の出場車輌を見ると、夏の全国大会には出場したIII号戦車J型やBT-5快速戦車、T-26軽戦車は見当たらず、代わりに機関銃搭載の軽戦車や豆戦車が増えた。チーム全体では機動力がやや向上した一方で、火力や防御力は低下。どうやら、同校はとくにソ連戦車のパーツ入手や維持修理に問題を抱えているようだ。一方、サンダース大学付属高校の出場車輌を見ると、M4シャーマン中戦車系列で統一されている。大きな欠点が無いバランスの良い戦力で、青師団高校がつけ入る隙は機動力くらいしかない。何故か男性ファンが多いと言われる青師団高校に果たして逆転の目はあるのか？

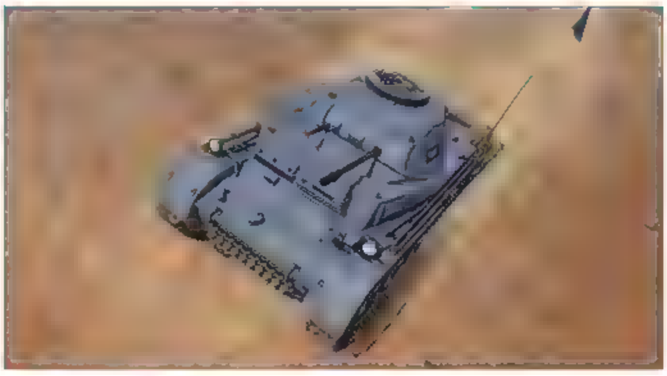
編集部注：各校隊長の意向により、一部検閲がかかっている場合があります。ご了承下さい。

青師団高校（和歌山）

使用車輌数：10輌

Ⅳ号戦車H型×1　Ⅱ号戦車F型×3
Ⅲ号突撃砲G型×1　Ⅰ号戦車B型×2
ベルデハ2×1　CV35快速戦車×2





戦力分析

青師団高校の出場車輌のうち、CV35快速戦車やⅠ号戦車B型に搭載されている機関銃では、サンダース大学付属高校のM4シャーマン中戦車系列を撃破するのは事実上不可能だ。

Ⅱ号戦車F型に搭載されている20ミリ機関砲なら、M4シャーマン系列の車体部で増加装甲が装着されていない側面や後面であれば、100メートル程度の至近距離で、かつ高速徹甲弾を使用することで貫通できる。ただし、予算が潤沢とは言えない学校なので、高価なタングステン弾芯内蔵の高速徹甲弾は、おそらく10発入りの弾倉1～2個を用意できる程度だろう。ベルデハ2に搭載されているスペイン製の45ミリ砲の詳細なデータは見当たらないが、ベースであるソ連製の45ミリ砲と同程度と仮定すると、通常の徹甲弾で距離ゼロでもM4シャーマン系列の砲塔や車体の前面を貫通するのは困難だ。

結論として、サンダース大学付属高校の戦車とまともにやりあえるのは、長砲身の75ミリ砲を搭載しているⅣ号戦車H型とⅢ号突撃砲G型しか無く、青師団高校の苦戦が予想される。

注目戦車：ベルデハ2

青師団高校の出場車輌の中でもっとも注目される戦車は、スペインが自力開発した数少ない戦車であるベルデハ2だ。最初に開発されたベルデハ1の発展型だが、構造は大きく異なっている。試作車は1944年8月に完成したが、性能的にはすでに時代遅れとなっており、量産には至らなかった。そのため、現存車は非常にレアだ。

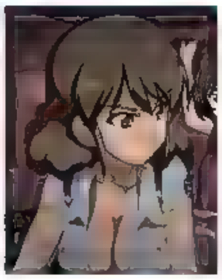


エル隊長 試合前コメント

相手は強豪だけど、マタドールのように決して勝てないわけじゃないのは大洗が証明したし、アタシたちの武器の足を活かして徹底的に撹乱してみせるわ！ 速度と機動性ならアタシたちの方が上、チームワークだって負けてないし、決してあきらめない試合運びが勝利を呼び込むの！ オーレ！

注目選手

隊長車操縦手 ヴィリディアナ



機動力を生かした戦いが予想されるため、エル隊長の指揮も重要だが、同様に各車輌の操縦手の腕が試合を左右する。とくに隊長車のヴィリディアナ操縦手は「パイラオーラ」の異名を取るキレのいい操縦が有名。どれだけの動きを見せられるか？

試合展開

序盤戦

試合が始まると、青師団高校は、まず軽快なCV35快速戦車やⅠ号戦車B型を先行させてサンダース大学付属高校の主力部隊を捜索しつつ、その後方にⅡ号戦車F型やベルデハ2、さらに後方にⅣ号戦車H型やⅢ号突撃砲G型を配置する陣形を取った。

会場内に設置された巨大スクリーンに、岩場を爆走するⅠ号F型の車内オンボード・カメラからの青師団高校の選手が大きく揺れる映像が映し出されると、男性比率がやけに高い観客席から何故か「おお～」という歓声があがる。

青師団高校の作戦は、サンダース大学付属高校の主力を発見次第、CV35やⅠ号B型を突っ込ませ、機動力で撹乱し、その隙にⅡ号F型を相手の側面に回り込ませたり、後続のⅣ号H型やⅢ突G型で狙撃を試みる、というものだった。

対してサンダース大学付属高校の作戦は、17ポンド砲搭載のシャーマン・ファイアフライを砲撃に有利な高地に、残りの主力を高地のふもと周辺に配置。まずファイアフライの遠距離砲撃で青師団高校のⅣ号H型やⅢ突G型を撃破し、あとは正面から力押しで押し切る、というものだった。

中盤戦

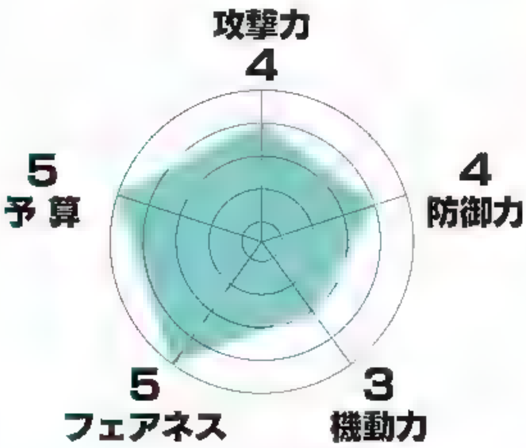
サンダース大学付属高校のケイ隊長は、高地に陣取るファイアフライから、青師団高校の戦車群が高速で接近中、との報告を受けると、青師団高校のⅣ号H型やⅢ突G型が射程に入る前に、先手を打って砲撃するよう指示した。

これを受けたファイアフライは、2000メートルを超える超遠距離から砲撃を開始。まず移動中のⅣ号H型を狙ったが、さすがに初弾は外れ。しかし、次弾は的確な修正で砲塔に命中させ、Ⅳ号H型は白旗をあげた。続けて3発目の砲撃でⅢ突G型も白旗をあげると、サンダース大学付属高校側の応援席から「イエス―」「ナイスショット―！」「フラボー！」といった陽気な掛け声が上がる。続いてサンダース大学付属高校のケイ隊長は、急速に距離を詰めてきた青師団高校の豆戦車や軽戦車に対し、砲撃するよう冷静に指示。アリサ副隊長の乗る76ミリ砲搭載のM4A1シャーマンを始めとする主力戦車の砲撃で、またたく間にⅠ号B型とCV35を各1輌撃破することに成功する。

サンダース大学付属高校（長崎）

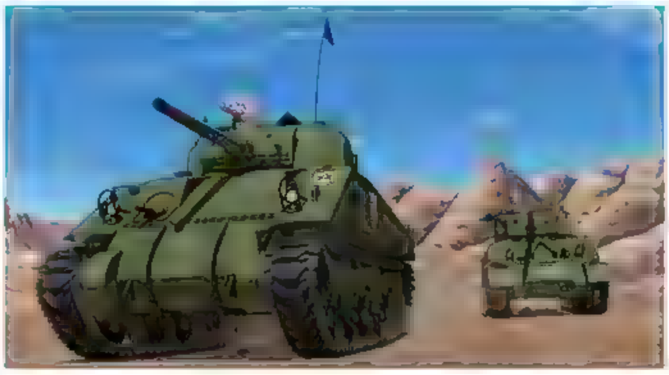
使用車輌数：10輌

シャーマン・ファイアフライ×1
M4A1中戦車（76ミリ砲搭載型）×1
M4中戦車（75ミリ砲搭載型）×8



注目戦車：シャーマン・ファイアフライ

サンダース大学付属高校の出場車輌の中でもっとも注目される戦車は、やはりアメリカ製のM4シャーマンをベースにイギリス製の17ポンド砲を搭載したファイアフライだろう。イギリスで開発されてアメリカ軍には採用されなかった戦車だが、アメリカ製の戦車で統一している同校に（現時点で確認されている限りでは）唯一の例外として採用されている。



戦力分析

サンダース大学付属高校の出場車輌は、すべてM4シャーマン中戦車系列で統一されている。青師団高校の戦車に対してはIV号戦車H型とIII号突撃砲G型以外の全ての戦車を遠距離から撃破可能だ。

しかし、IV号H型やIII突G型と比較すると、数の上での主力である75ミリ砲搭載のM4シャーマンは、特に火力の面でやや劣っている。しかし、76ミリ砲搭載のM4A1シャーマンならば、ほぼ互角。シャーマン・ファイアフライ搭載の17ポンド砲ならば、IV号H型やIII突G型の前面装甲であっても2000メートル以上の遠距離から貫通できる（命中は至難の業だが）。

逆に、青師団高校側から見ると、IV号H型やIII突G型に搭載されている長砲身の75ミリ砲ならば、距離1000メートルの遠距離からでもM4シャーマン系列を正面から撃破可能だ。

したがって、サンダース大学付属高校側から見ると、IV号H型とIII突G型の早期撃破が出来るかどうかが勝利の鍵となる。



ケイ隊長 試合前コメント

どんな試合でも私たちは全力を尽くす、だってそのほうがエキサイティングじゃない！ 楽しくなければ戦車道じゃない。今回の相手は情熱的だってことだから、私たちも熱くいくわよ！ Go Ahead！！

注目選手

副隊長 ナオミ



注目は高校No.1砲手との呼び声も高いナオミ副隊長であろう。夏の全国大会こそ初戦で敗退したが、その際も優れた腕前を見せつけている。機動力を重視する青師団に対してもその腕前が発揮できるかが注目ポイントだ。

試合展開 後半戦～決着

ここで青師団高校のエル隊長は、味方の残存車輌に対して時退却することを指示した。

青師団高校は序盤でIV号H型とIII突G型を失ったため、もはや相手戦車を撃破可能な戦車はII号F型とベルデハ2のみ。ここは相手戦車と一旦距離をとり、高低差のある地形を利用して死角からなんとか近づき、弱点を狙う、という意図だったと思われる。

一方、サンダース大学付属高校のケイ隊長は、青師団高校の残存戦車が後退し始めたのを確認すると、ファイアフライに高地上を進むように指示。そして主力を自ら率いて青師団の追撃を開始した。

追撃部隊は、青師団高校のI号F型、ベルデハ2、I号B型、CV35を次々と撃破。さらにケイ隊長が乗るフラッグ車も落ち着いた行進間射撃でII号F型を1輌撃破した。

ただ1輌残った青師団高校のフラッグ車のI号F型は、サンダース大学付属高校の追撃部隊を振り切って丘の影に隠れようとさらに加速する。

しかし、高地上を前進してきたファイアフライが、これを超遠距離から砲撃。一撃で見事撃破すると、サンダース大学付属高校の応援席から割れんばかりの大歓声があがり、青師団高校のファンからはタメ息が漏れた。



試合結果

× 青師団高校（和歌山）
×
○ サンダース大学付属高校（長崎）

ターニングポイント



青師団高校は、先頭にCV35やI号B型、続いてII号F型やベルデハ2、さらに後方にIV号H型やIII突G型の順に前進させた。これに対してサンダース大学付属高校は、ファイアフライを見通しの良い高地に配置し、残りの戦車を高地のふもと周辺に配置。ファイアフライの遠距離砲撃によって、青師団高校の主力であるIV号H型やIII突G型を試合の序盤で撃破して主導権を握った。

試合のポイント

試合を振り返ってみると、サンダース大学付属高校のナオミ選手の正確な遠距離射撃能力が、青師団高校の出鼻をくじき、当初の作戦を崩壊させたと言える。また、ナオミ選手は、相手のフラッグ車を超遠距離から砲撃して、試合の勝敗を決してもいる。

遮蔽物の少ないステージで、強力な主砲を搭載している戦車に高い技量を持つ砲手を乗せた時の威力を、まざまざと見せつけた試合、と言えるだろう。

そして、この見事な砲撃に隠れて目立たないが、これもサンダース大学付属高校のケイ隊長が、ファイアフライを的確に配置し、展開を読んで追撃経路を指示したからこそ実現したものだ。加えて、ケイ隊長は、試合の序盤に青師団高校の豆戦車や軽戦車が距離を詰めてきた時や、試合後半の追撃の際に、冷静かつ的確な指示を出しており、指揮統率能力の高さを見せている。

サンダース大学付属高校は、夏の全国大会では初戦敗退に終わった。また、同校の数の上での主力である75ミリ砲搭載のM4シャーマンは、他の強豪校の主力戦車（例えばプラウダ高校のT-34／85や黒森峰女学園のパンターG型など）と比較すると戦力として劣る部分もある。それでも同校は、やはり強豪校と呼ばれるだけの実力の持ち主なのである。そのことをこの試合で証明してみせたのだ。



両校隊長試合後コメント

青師団高校：エル

なによ、あの砲撃！ こっちの射程に入る前に主力が全滅しちゃったら、どうしようもないじゃない！ それにあの指揮……私たちをファイアフライの射界に入るように誘導していたとしか思えないわ。……完敗よ。でも見てなさい、次はもっと腕を磨いてリベンジしてみせるわ！

サンダース大学付属高校：ケイ

良い試合だったわ。最初の遠距離砲撃戦は狙い通り、ナオミがしっかりと応えてくれたわ、さすがね。アリサたちも確実に相手を追い詰めてくれたしチームの調子は最高よ。2回戦が楽しみだわ！

ワンポイントコラム 青師団高校の戦車

文：田村尚也

青師団高校はスペインをリスペクトしている学校で、戦車道チームが使用している戦車もスペインにゆかりのある車輌が揃っている。

具体的に言うと、II号戦車F型やI号戦車B型は、スペイン内戦に参加したドイツ軍のコンドル軍団も使用したもの。CV35快速戦車は、同じくスペイン内戦に参加したイタリア軍のスペイン遠征軍も使用したとされているものだ。加えて、夏の全国大会に出場したソ連製のT-26軽歩兵戦車やBT-5快速戦車も、スペイン内戦に参加している。

ドイツ製のIII号突撃砲G型は、第二次世界大戦中にドイツからスペインに少数が供与された。また、大戦後半に中立を維持していたスペインの港に枢軸側の商船が逃げ込んできて抑留した際に、V号戦車H型とIII号突撃砲G型を接収している。ベルデハ2は、第二次世界大戦前にスペインが独自に開発を始めた国産戦車であるベルデハ1の発展型だが、大戦中に開発が中止されて量産には至っていない。

ちなみに、スペイン内戦では、機関銃搭載の豆戦車や軽戦車の対戦車能力の低さとそれによる戦術上の限界が露呈し、火砲を搭載した対戦車能力を持つ戦車の必要性がハッキリした、と評されることが多い。それでも同校の戦■道チームは、機関銃搭載の豆戦車や軽戦車を使っている。これもスペインをリスペクトする同校の戦車道のあり方と言えるだろう。

I号戦車B型

写真提供：グランドパワー（ガリレオ出版）



第41回冬季無限軌道杯1回戦 全試合解説

第4試合

ヨーグルト学園（群馬）×継続高校（石川）

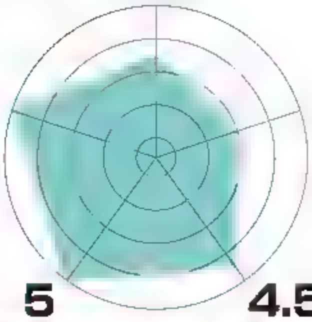
1回戦の第4試合は、ヨーグルト学園と継続高校の対戦となった。夏の全国大会では、ヨーグルト学園はワッフル学院に、継続高校は青師団高校に、それぞれ勝利して2回戦に進出。しかし、2回戦では、ヨーグルト学園は聖グロリアーナ女学院に、継続高校は黒森峰女学園に、それぞれ敗れた。つまり、ヨーグルト学園と継続高校の両校とも、一定以上の実力は持つものの、強豪校の壁を突き破ることのできない中堅クラスの学校と言える。ただし、両校の特徴は大きく異なる。まずヨーグルト学園は、複雑巧緻な作戦よりも正面きっての撃ち合いに定評がある。一方、継続高校は、機動力を活かした迂回作戦や神出鬼没の遊撃戦などを得意とする学校だ。正攻法と奇襲、それぞれまったく異なる特徴を持つ二校のどちらに軍配があがるのか。玄人好みの面白さを持つ一戦と言える。

編集部注　各校隊長の意向により、一部検閲がかかっ[illegible]ご了承下さい。

継続高校（石川）

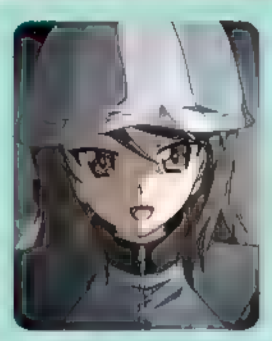
使用車輌数：10輌

BT-42×1



注目戦車 BT-42

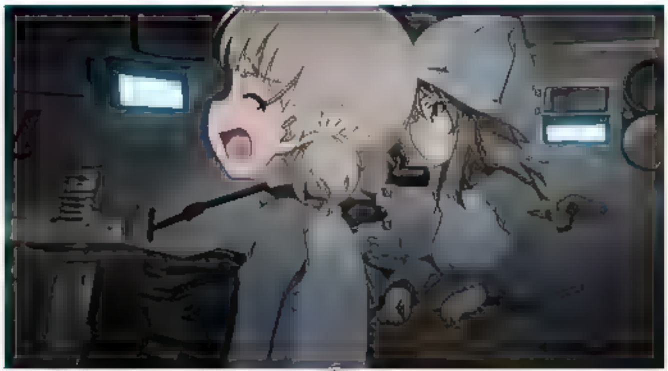
継続高校の出場車輌で注目されるのは、やはり先の対大学選抜チーム戦でも大きな活躍を見せたBT-42だ。装甲が薄く、主砲も短砲身で遠距離から移動目標を狙うのには適していないにもかかわらず、その試合でも、同校のミカ隊長の指揮のもと、変幻自在の機動を披露して観客を大いに沸かせた。この試合でも、その再現に期待したい。



ミカ隊長 試合前コメント

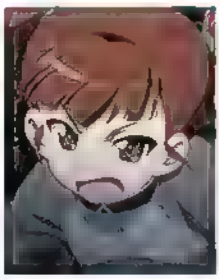
大切なのは、全員が自分のやりたいことを知っているってことさ。それが先に進むには必要なんだ。みんなと同じことをするのは簡単だよ。でも自分のやりたいことを大事にする。それが先に進むってことなんじゃないかな。

戦力分析



注目選手

隊長車操縦手 ミッコ



継続高校の注目選手は、隊長車を操縦しているミッコ選手だろう。フライング・フィンの異名のように、まるで戦車を飛ぶように操る華麗なドライビングテクニックはミカ隊長や砲手のアキ選手との連携力も高く、継続高校の戦術の一端を支えている。

試合展開

序盤戦

継続高校は、同校がリスペクトしているフィンランドの国民性に習ったものなのか、冬場は校外活動が下火になりがちで、観客席の生徒もまばら。一方、ヨーグルト学園は、夏の全国大会で1回戦を突破したこともあって、多数の生徒が観客席に詰めかけた。ただし、継続高校の生徒の中には、スタンド以外の場所で野宿しつつ試合を見守る者も少なくない。

と言っても試合会場は、継続高校の生徒が好んで野営する湖沼地帯や寒冷地ではなく、暑く乾いた砂漠地帯だ。ゆるやかな傾斜の砂丘がどこまでも続く地形で、建物や茂みなどの遮蔽物はなく、大きな砂丘の向こう側以外はよく見通せる。したがって、継続高校の得意な戦術の一つである神出鬼没の遊撃戦には向いていない。逆にヨーグルト学園にとっては、見通しが良く遠距離からの砲撃が可能なので、同校が好む正面からの砲撃戦に適している。

そして試合が始まると、ヨーグルト学園はおおかたの予想通り正面から砲撃戦を挑んだ。具体的には、先頭にパンターD/G型とⅣ号G/H型、その直後にⅢ突F/G型とヘッツァー、さらに後方にオチキスが続いて前進。フラック車とその護衛車輌である38（t）B/C型は後方に控えるという作戦を採ったのだ。

これに対して、継続高校の、や、などが砂塵を巻き上げながら前進を開始。こうして両校の主力が真正面から激突することになった。

中盤戦

継続高校の主力は、ヨーグルト学園の先鋒から距離約1500メートルで停止して砲撃を開始。対するヨーグルト学園の主力は、さらに500メートルほど前進してから停止して砲撃を始めた。

夏の全国大会では、ヨーグルト学園は砲撃の技量が低く、2回戦では聖グロリアーナ女学院の主力に対して3000メートルの超遠距離から砲撃を始めたものの命中弾をなかなか与えられず、一挙に距離を詰められて敗北している（本誌「第63回戦車道全国高校生大会総決算特別号1」参照）。そこでヨーグルト学園は、試合直後から砲撃の猛訓練を重ねるとともに、今回の試合では距離を1000メートルまで詰めてから砲撃を開始したのだ。

そしてヨーグルト学園は、継続高校のに、次いでにも、それぞれ多数の命中弾を与えて撃破。観客席のヨーグルト学園の生徒から立て続けに大歓声があがった。しかし、継続高校もしぶとく食い下がり、同校のは、ヨーグルト学園のⅣ号G/H型の砲塔前面に直撃弾を与えて白旗を上げさせている。

ヨーグルト学園（群馬）

戦力分析



ヨーグルト学園は、夏の全国大会では、スクラップから再生したドイツ製の戦車（第二次世界大戦前にドイツに併合されたチェコの戦車を含む）を多数出場させて、他校の生徒や観客を驚かせた。そしてこの無限軌道杯でも、複数の形式が入り混じった独特のドイツ戦車を多数出場させている。攻撃力の中心は、超長砲身の75ミリ砲を搭載しているパンターD/G型と、長砲身の75ミリ砲搭載のIV号戦車G/H型、III号突撃砲F/G型、ヘッツァーだ。今回出場した継続高校の戦車ならば距離1000メートルの遠距離からでも撃破できる。チェコ製で37ミリ砲を搭載している38(t)戦車B／C型は、装甲は薄いものの、機動力は悪くないし、継続高校の装甲の薄いBT快速戦車系列ならば遠距離から撃破可能だ。フランス製のオチキスH39は、本来は歩兵支援用で、そもそも対戦車戦闘にあまり向いていない。したがって、出場車輌のスペック面から見れば、ドイツ戦車の火力の大きさと射程の長さを活かして、遠距離からの砲撃戦で勝負をつけたいところだ。

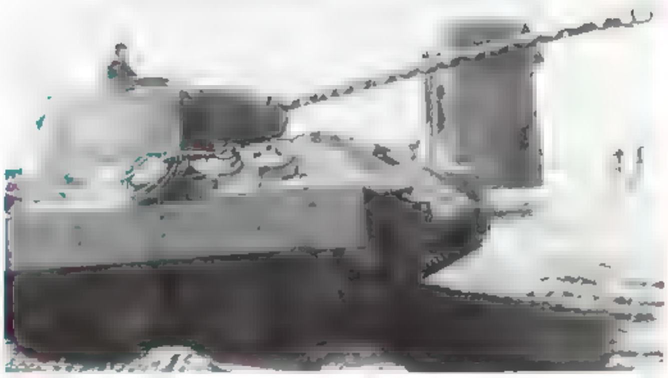
使用車輌数：10輌

38(t)戦車B/C型×4　III号突撃砲F/G型×1
パンターD/G型×1　ヘッツァー×1
IV号戦車G/H型×1　オチキスH39×2



注目戦車：パンターD/G型

ヨーグルト学園が出場させたドイツ戦車は、スクラップからの再生車輌なので、各型の特徴が入り混じっている。そのため、ドイツ戦車の形式に詳しい戦車道ファンは、どの部分にどの型のパーツが使われているのかを分析する楽しみがある。その再生車輌の中でもっとも強力なのがパンターで、各部にD型とG型のパーツが混用されている。

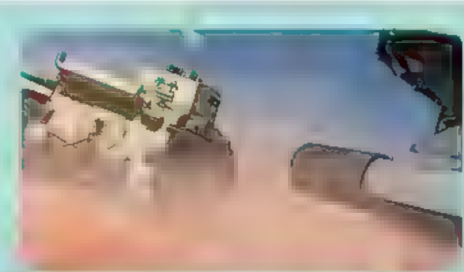


参考 パンターD型　写真提供：グランドパワー（ガリレオ出版）

試合展開　後半戦～決着

一進一退の手に汗握る熾烈な砲撃戦に、観客だけでなく、ヨーグルト学園の選手達の目も引き付けられていた。その時、ヨーグルト学園後方のフラッグ車のさらに後ろから、継続高校のBT-42や継、継が突如姿を現した。実は、継続高校は、もうもうと立ちこめる砲煙と砂塵にまぎれて、快速の継を密かに分派しており、砲撃戦が繰り広げられている平地の横にそびえる大きな砂丘の死角を大きく迂回させていたのだ。

しかし、ヨーグルト学園のフラッグ車と護衛車は、後方からの奇襲にも慌てずに反転。突進してくる継続高校の別働隊からフラッグ車を守るように護衛車が前方に躍り出ると、継続高校の継や継を次々と撃破した。それでも継続高校のBT-42は突進を続けてヨーグルト学園の護衛車の38(t)B／C型と接触。横転しつつもすれ違いざまにヨーグルト学園のフラッグ車の後方から砲撃し、見事白旗を上げさせた。





試合結果

○ 継続高校（石川）
×
× ヨーグルト学園（群馬）

ターニングポイント



見通しの良い砂漠ステージで、ヨーグルト学園と継続高校の主力同士が正面から激突し、ヨーグルト学園がやや優位に立った。しかし、その間に継続高校の別働隊が砂丘の影の死角を大きく迂回し、ヨーグルト学園の後方のフラッグ車のさらに後方に出現。継続高校のBT-42は、ヨーグルト学園のフラッグ車の護衛隊の砲撃を驚異的な機動で回避し、観客席からは「まるでワープだ」という声があがった。

勝利校隊長試合後コメント

継続高校：ミカ

風が教えてくれたんだよ、「ワープしたら良いんじゃないかな？」って。砂漠の風もたまには良いものだね。

試合のポイント



試合を振り返ってみると、継続高校とヨーグルト学園の両校とも、それなりに強力な戦力を持っており、とくに超長砲身の75ミリ砲搭載のパンターも保有しているヨーグルト学園が、より有利な遠距離からの砲撃戦に持ち込むことができたかに思われた。実際、この砲撃戦だけを見ると、ヨーグルト学園の方が相手により大きな損害を与えている。

しかし、継続高校は、両校の主力同士をあえてぶつけることで足止めし、その間に別働隊を大きく迂回させて、後方に控えていた相手のフラッグ車のさらに後方から奇襲する、という作戦を立てていたのだ。しかも、本誌記者の試合後の取材によると、継続高校の別働隊の車輌は、冷たい水や保冷剤の入ったクーラーボックスを積み込んでいたという。同校は、夏の全国大会の2回戦では、不慣れな砂漠ステージで苦戦して黒森峰女学園に敗れており、その時の教訓を活かしたのであろう。

対するヨーグルト学園は、夏の全国大会後に砲撃の厳しい訓練を重ねており、その砲撃がうまくいきつつあったからこそ、正面の相手に気を取られてしまったのが敗因と言える。

とは言え、継続高校は多数の戦車を撃破されており、予算不足で知られている同校が2回戦までに修理を終わらせることができるのか、不安も残る結果となった。

ワンポイントコラム BT-42について

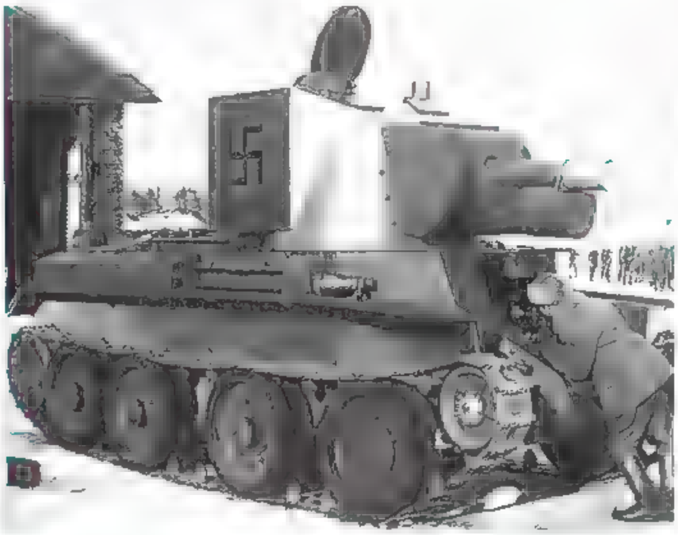
文：斎木伸生

BT-42は、フィンランド軍戦車部隊の突撃砲大隊に配属されるよう開発された車体であった。突撃砲というのは、戦車と似た装甲車体に大口径の火砲を搭載した火力支援用の装甲車輌である。そもそもが戦車と戦うことを主任務として開発されたわけではない。だから、それが主力として最前線で戦うという、継続高校の戦い方は本来はおかしい。火力支援車輌なのだから、後方にどっしりかまえてが正しい。まあ、現実のフィンランドでも、BT-42は最前線で戦って多数が撃破されたのだからおんなじだろうか。これも、ある物全てを投入しなければならない、すべて貧乏が悪いんや。

そもそもが戦車の入手が困難なため、フィンランドで国産開発することになったわけであるが、フィンランドでは戦車を生産していない。なので国産といっても完全に新規製作されたわけでなく、既存の車体と砲を使用して改造されることになった。ベース車体となったのはソ連製のBT-7快速戦車で、搭載砲にはイギリス製のQF4・5インチ（114ミリ）榴弾砲Mk.IIが選ばれた。車体は1930年代、砲は第一次世界大戦という年代物、性能不足も致し方ない。

ただし、成型炸薬弾のおかげで、十分な装甲貫徹力は有していた。それと、BT戦車車体のおかげで機動力が良いこと（本当はけっこう微妙なのだけど）。この攻撃力、機動力を活かすためには、敵中に躍り入って敵味方混交した状態で、死中に活を求めるミカさんの戦い方はベストなのかもしれない。

BT-42
写真提供：グランドパワー（ガリレオ出版）



第41回冬季無限軌道杯1回戦　全試合解説

第5試合

黒森峰女学園(熊本)
×
マジノ女学院(山梨)



1回戦の第5試合は、優勝候補の黒森峰女学園と、最近の公式戦では勝ち星が無いマジノ女学院の対戦となった。

ご存知のように、黒森峰女学園は全国大会9連覇という不滅の実績を残す強豪校だ。しかし、昨年の夏の全国大会ではプラウダ高校に10連覇を阻まれ、今度は大洗女子学園に決勝で苦杯をなめさせられた。今回の大会は、その雪辱をかけた戦いと言える。また、前隊長の西住まほ選手がドイツに留学したため、逸見エリカ新隊長のもとでの初公式戦であり、その手腕と同校の戦術の変化が注目される。

対するマジノ女学院は、夏の全国大会では1回戦でアンツィオ高校の撹乱戦術に敗れた（本誌「第63回戦車道全国高校生大会総決算特別号1」参照）。そして、こちらの学校も新たにエクレール選手が隊長に就任しており、その実力が注目される。とは言え、戦力的には黒森峰女学園が圧倒的に有利であり、いずれにしてもマジノ女学院にとっては厳しい戦いが予想される。

編集部注：各校隊長の意向により、一部検閲がかかっている場合があります。ご了承下さい。

黒森峰女学園（熊本）

使用車輌数：10輌

ティーガーII×2
パンターG型×4
ヤークトパンター×1
エレファント×1
ヤークトティーガー×1
IV号駆逐戦車L70×1



注目戦車 パンターG型

黒森峰女学園の出場車輌の中では、パンターG型に注目したい。とくに珍しい車種というわけではないが、これ以外の出場車輌はいずれも機動力が低く、マジノ女学院が例えば機動力の高いソミュアS35で一撃離脱の遊撃戦を仕掛けてきた場合、これを追撃して捕捉できない。その時は機動力の高いパンターの使い方がカギになるはずだ。

戦力分析



黒森峰女学園の出場車輌を見ると、ティーガーIIやヤークトティーガーなどの大口径の主砲と重装甲を備えた重戦車や重駆逐戦車に、火力、防御力、機動力をいずれも高いレベルでバランスのとれたパンターG型を組み合わせた編成になっている。このうちの重戦車と重駆逐戦車は、火力や防御力に関してはマジノ女学院が出場させた戦車のすべてを大きく上回っている。問題は、それらの重戦車や重駆逐戦車の機動力が低いことだ。もっとも、マジノ女学院の戦車の多くも同様に機動力が低く、高い機動力を持っているのは快速の騎兵戦車であるソミュアS35くらいしかない。黒森峰女学園の新隊長である逸見エリカ選手は大火力重装甲のティーガーIIを愛車としており、大方の予想では機動戦よりも火力戦を志向するものと見られていた。にもかかわらず、機動力が比較的高いパンターを4輌も出場させたのは、マジノ女学院のソミュアへの対策であろう。パンターならば火力、防御力、機動力のいずれもソミュアを上回っているからだ。黒森峰女学園らしい隙のない編成と言える。



逸見エリカ隊長 試合前コメント

私たちは、尊敬する西住隊長、いえ前隊長が成し遂げようとして成し得なかった新たな黒森峰女学園の戦車道を追い求めて、日々訓練に励んでいます。西住流の戦車道をより深く学ぶことによって、決して乱れることなく、走・攻・守のすべてを兼ね備えた戦い方を目指しています。

注目選手

隊長 逸見エリカ

名門黒森峰女学園は、先代隊長の西住まほ選手が海外留学したため、副隊長の逸見エリカ選手が新隊長となった。西住流のカラーが強い同校で、西住流の門下生としてどの程度指導力を発揮できるのか。その点も注目される。

試合展開

序盤戦

試合会場は、深い森の端付近で、森の外れに近づくと徐々に木々がまばらになり、さらに先のひらけた所に要塞の廃墟が点在するステージ。木々や廃墟など遮蔽物が多く見通しが悪いので、黒森峰女学園にとっては火力の大きさや射程の長さという優位点を活かしにくい地形だ。逆にマジノ女学院にとっては、隠れる場所が多いので遊撃戦に適した地形と言える。

試合前に本誌記者が集めた情報によると、マジノ女学院では、隊長の交代とともに、同校の伝統であった防御的な戦術から攻撃的な戦術に転換したという。切り札は騎兵戦車による一斉突撃で、その迫力はナポレオン時代の術騎兵を思わせる、との目撃談もあった。とはいえ、黒森峰女学園との戦力差を考えると、うかつに突撃をかけても自滅するだけだ。マジノ女学院の新隊長がどのような作戦を展開するのか。黒森峰女学園の新隊長はそれに対応できるのか。両校の生徒や観客らが固唾を飲んで見守る中で試合が始まった。

マジノ女学院は、まずソミュアを先行させて森の中に前進させるとともに、それ以外の鈍足の戦車も続いて森の中に姿を消した。

対する黒森峰女学園は、先行させたパンターを扇形に展開させて主力の前方に警戒スクリーンを展開するとともに、後方の主力はくさび形のいわゆる「パンツァーカイル」と呼ばれる陣形を組んで、森の中を前進していった。

中盤戦

最初に攻撃を仕掛けたのはマジノ女学院だった。先行させたソミュアで、黒森峰女学園の先鋒のパンタ　を木陰から砲撃し、すぐに森の中に隠れる一撃離脱を繰り返して、黒森峰女学園を挑発したのだ。

その挑発に乗って黒森峰女学園のパンターの1輌がソミュアを追って深い森の中に分け入ると、待ち伏せしていたシャールB1bisに至近距離から側面を撃たれて白旗をあげた。戦力的には圧倒的に不利と見られていたマジノ女学院が先に戦果をあげたのだ。観客席のマジノ女学院の生徒たちから歓声があがり、黒森峰女学園のチーム内に動揺が広がった。

しかし、黒森峰女学園の逸見エリカ隊長は、落ち着いた声でパンター隊に深追いを禁じるとともに、フィールド（地域）をおさえつつ前進するよう指示した。次いでマジノ女学院のソミュアが別のパンタ　に再び挑発をかけてきたが、黒森峰女学園は主力を前に押し出してパンターを支援。マジノ女学院のソミュアや他の戦車が潜んでいると思われる一帯に猛砲撃を行って、マジノ女学院の車輌を森の端へと徐々に追い込んでいった。

マジノ女学院（山梨）

使用車輌数：10輌

ソミュアS35×5　ルノーR35×2
B1bis×2　ルノーFT×1



注目戦車：ソミュアS35

マジノ女学院の出場車輌の中ではソミュアS35に注目したい。これも特に珍しい車輌というわけではないが、鈍足揃いの同校の車輌の中で唯一高い機動力を備えている。搭載されている長砲身の47ミリ砲は距離500メートル以下に接近すればパンターの側面ならば貫通できる可能性が高いので、接近戦を挑みたいところだ。

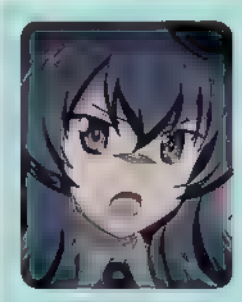


写真提供：グランドパワー（ガリレオ出版）

戦力分析



フランスをリスペクトしているマジノ女学院の出場車輌は、同じくフランスをリスペクトしているBC自由学園と同様に、フランス製の戦車で統一されている。ただし、BC自由学園のARL44が（同校の「注目戦車」の項で述べたように）実質的には戦後型と言える新しい戦車なのに対して、マジノ女学院の戦車は1940年以前に登場した古い戦車ばかりだ。相手の黒森峰女学園の出場車輌は1943年以降に登場した戦車が揃っており、その約3年間の戦車の性能向上が、両校の戦力差にほぼ直結していると言える。唯一マジノ女学院のソミュアS35は、機動力に関して黒森峰女学園の重戦車や重駆逐戦車より優れている。これを活用した作戦が主軸になるだろう。しかし問題は、黒森峰女学園がおそらくソミュア対策として、機動性の高いパンターを4輌出場させていることだ。マジノ女学院としては、このパンターを早期攻略しない限り、圧倒的な戦力差を覆して勝機を見出すことは難しいだろう。その意味では、黒森峰のパンター対策が勝利へのポイントと言える。



エクレール隊長 試合前コメント

戦車の性能では確かに私たちは劣っているかもしれませんわ。ですが、夏の全国大会で、戦車道は戦車の性能だけではないことが証明されました。強豪の黒森峰といえど、前隊長が抜けた今、つけ入る隙は十分にあります。それを読み、足を使い、頭を使うことで、勝ちを引き寄せてみせます。

試合展開

後半戦〜決着

こうした黒森峰女学園の隙を見せない戦い方によって、マジノ女学院の戦車はとうとう森の中から追い出されてしまった。そして、やむをえず平地を横切り、その先の要塞の廃墟の影に逃げ込んだ。しかし、この先にはもう逃げ隠れできるような場所は無い。マジノ女学院の戦車は、要塞の砲台などを遮蔽物として利用して布陣し、黒森峰女学園の戦車を待ち構える。

一方、黒森峰女学園は、パンターを先鋒に森を抜け、見通しの良い平原をガッチリした隊形を組んで威風堂々と前進を続ける。その様子を巨大モニタで見ていた観客席の黒森峰女学園の一年生が小さな、しかし美しい声でパンツァーリートを歌い始める。すると同校OGたちからも次々と力強い歌声が響き出し、ついには観客席の同校の生徒たちすべてが一斉に足を踏み鳴らして歌う大合唱で会場は満たされた。

マジノ女学院は、相手を少しでも撹乱しようと遠距離から砲撃を開始した。しかし、黒森峰女学園は、これを全く意に介さず前進を継続。十分に距離を詰めてからの一斉砲撃で、マジノ女学院のフラッグ車もろとも付近の戦車を全滅させ、勝利を得た。



試合結果

○黒森峰女学園（熊本）
×
×マジノ女学院（山梨）

ターニングポイント



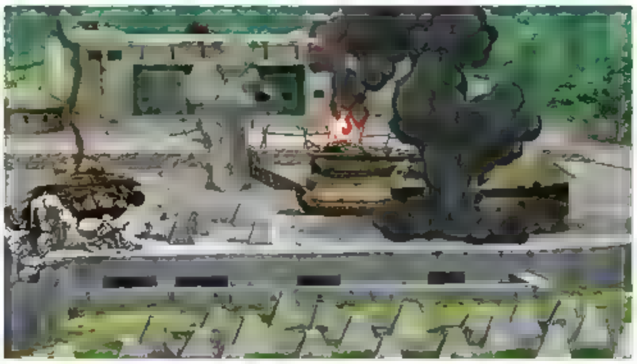
黒森峰女学園の強力な重戦車や重駆逐戦車の大火力によって森から追い立てられたマジノ女学院の車輌は、要塞の廃墟の陰に逃げ込んだ。対する黒森峰女学園は、パンターを先頭にひらけた平地をガッチリとした隊列を組んで前進。次いで先鋒のパンターを追い越すように主力を前面に押し出すと、マジノ女学院の車輌からの牽制砲撃を一切相手にせず、距離を十分に詰めてから一斉に砲撃を開始した。

試合のポイント

試合を振り返ってみれば、マジノ女学院は、軽快なソミュアによる挑発と、火力と装甲に優れたＢ１ｂｉｓなどによる待ち伏せを組み合わせたエクレール隊長の戦術によって、これらの戦車よりも高い性能を持つパンターを仕留めるという金星をあげた。

ここで黒森峰女学園が、夏の全国大会の決勝戦で大洗女子学園の数々の挑発に経験の浅い選手たちが乗ってしまったように、先走っていたら違う試合展開になっていたかもしれない。

しかし、黒森峰女学園新隊長、逸見エリカは落ち着いていた。各選手も新隊長の冷静な指揮に応え、大火力を活かしてマジノ女学院の戦車を森から追い立てていった。そもそもソミュアを含むフランス戦車は、一部を除いて砲塔が１名用で（BC自由学園の戦力分析の項で述べたようにソミュアの砲塔は「１名半用砲塔」とも呼ばれているが）、車長が戦闘の指揮に専念できない。これに対して黒森峰女学園の戦車のほとんどは砲塔が３名用で、車長が戦闘の指揮に専念できるので、視界が限られる森の中での状況判断の面でも優位に立てたのだ。そして見通しの良い平地に出てしまえば、あとは黒森峰を阻むものなどあるはずもなかった。



黒森峰の圧勝に終わったこの試合だったが、ただ勝敗を別にすると、両校の新隊長がともに実力の片鱗を見せた試合だったと言える。

両校隊長試合後コメント

マジノ女学院：エクレール

序盤の作戦はうまくいったと思いました。新体制の経験の浅さを突破口にしようと思いましたが、やはり西住流新隊長の統率力は素晴らしかったですわ。中盤以降は何もできませんでした。完敗です。

黒森峰女学園：逸見エリカ

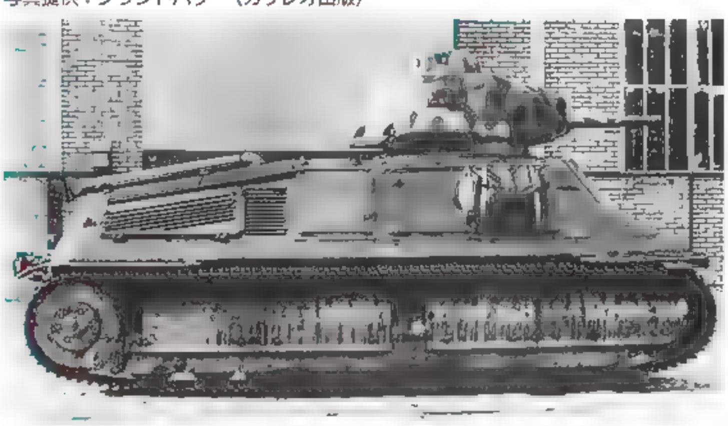
今回の試合は、私たちが積み重ねてきたことを実践する場でした。それはいかなる相手であろうとも全力で相対し、基本に忠実に、そして王者の戦いをすることです。西住前隊長から言われたことがあります。「いかなる時も相手を侮らず、慎重かつ細心に状況を把握し、攻めると決めた時は一心不乱に攻撃すべき」と。次の試合も油断せず臨みたいと思います。

ワンポイントコラム　フランス戦車の傑作、ソミュアS35

文：田村尚也

第二次世界大戦前、フランス軍の騎兵科では、１９３１年に騎兵部隊の機械化を検討し始め、１９３２年から正式に捜索装甲車ＡＭＤ（Automitrailleuse de Découverte の略。直訳すると捜索機関銃車）、偵察装甲車ＡＭＲ（Automitrailleuse de Reconnaissanceの略。直訳すると偵察機関銃車）、敵の装甲車輌との戦闘を考慮した戦闘装甲車ＡＭＣ（Automitrailleuse de Combatの略。直訳すると戦闘機関銃車）の開発に着手した。一般に「捜索」は所在不明の敵を探索すること、「偵察」は存在や概略の位置が分かった敵の状況を探ることを言う。したがって、広範囲にわたって敵を探して長距離を走行するＡＭＤには装輪（タイヤ）式の足回りが、状況により不整地を走破して敵の状況を探るＡＭＲや敵と戦闘するＡＭＣには装軌（履帯）式の足回りが、それぞれ適しているというわけだ。

そして、有名な火砲メーカーであるシュナイダー社の子会社であるソミュア社（ＳＯＭＵＡ。Société d'Outillage Mécanique et d'Usinage d'Artillerieの略。機械工具火砲加工会社の意）は、１９３４年に改訂されたＡＭＣの要求仕様に基づいて、翌年に試作車を製作。これに改良を加えた車輌が採用された。フランス軍の名称はＡＭＣ Ｍｌｅ35Ｓ（Automitrailleuse de Combat Modèle 1935 SOMUAの略）だが、一般にソミュアS35と呼ばれており、騎兵部隊向けの「騎兵戦車」に分類されている。同時期のドイツのⅢ号戦車やⅣ号戦車を上回るスペックを持つフランス戦車の傑作だ。



ソミュアS35
写真提供：グランドパワー（ガリレオ出版）

第41回冬季無限軌道杯1回戦　全試合解説

第6試合

プラウダ高校（青森）×ヴァイキング水産高校（岩手）



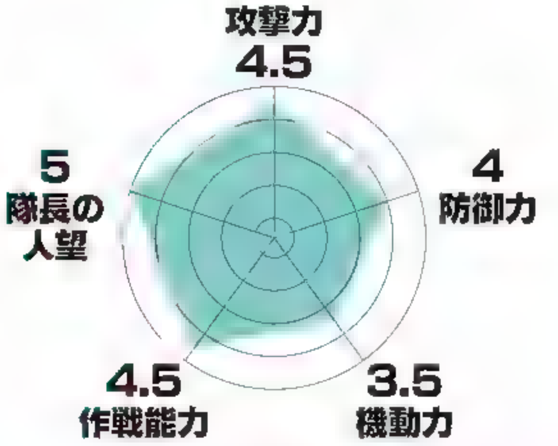
1回戦の第6試合は、プラウダ高校とヴァイキング水産高校の対戦となった。両校は、夏の全国大会（第63回大会）でも対戦しており、今年2回目の公式戦での対戦となる。ヴァイキング水産は、夏の全国大会の1回戦ではコアラの森学園に勝利を収めたものの、2回戦ではプラウダ高校に滅多打ちにされて力負けした。この敗戦を受けヴァイキング水産は、今回の大会前にM24チャーフィー軽戦車を導入し、とくに火力と機動力を向上させている。対するプラウダ高校は、昨年度の夏の全国大会（第62回大会）の優勝校だ。同校の戦車はソ連製で統一されており、火力、防御力、機動力いずれも高いレベルでバランスのとれたT-34系列の中戦車に加えて、さらに大口径の主砲と重装甲を備えるIS-2などの重戦車も保有している。また、同校の隊長であるカチューシャ選手は、第62回大会の優勝の立役者でもあり、チームメイトからの信望はある意味厚い。強豪のプラウダ高校に、前回のリベンジに燃えるヴァイキング水産がどのような戦いを挑むのか。新しい戦車をどう使うのか。この試合の最大の注目点と言える。

編集部注：各校隊長の意向により、一部検閲がかかっている場合があります。ご了承下さい。

プラウダ高校（青森）

使用車輌数：10輌

T-34/85×4　IS-2×1
T-34/76×4　KV-2×1





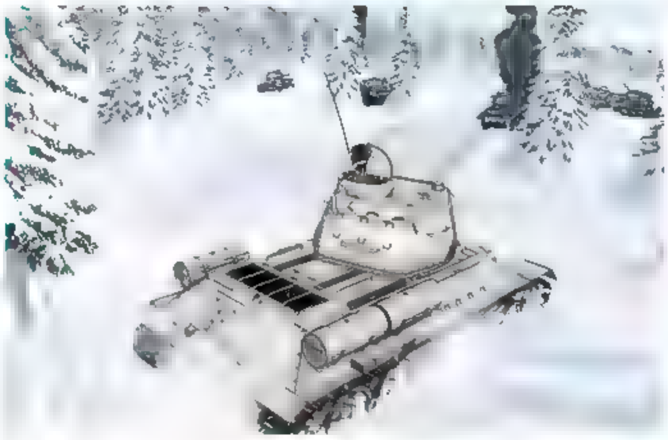
戦力分析

プラウダ高校の主力は、T-34系列の中戦車だ。T-34/76は42.5口径（砲身の長さが口径の42.5倍）の76ミリ砲を、T-34/85は51.2口径の長砲身の85ミリ砲を、それぞれ搭載している。車体は共通で、いずれも十分な機動力を持つ。IS-2は、長砲身の122ミリ砲を搭載しており、大火力で重装甲だが、機動力はやや低い。KV-2は、大口径の152ミリを搭載しており、こちらも大火力だが、機動力は非常に低い。

対戦相手のヴァイキング水産の出場車輌を見ると、III号戦車J型以外は装甲が薄く、いずれも遠距離から撃破できる。III号J型は、プラウダ高校の出場車輌の中では火力が小さいT-34/76でも、500メートル以下の近距離ならば正面から撃破可能だ。ただし、ヴァイキング水産が新たに導入したM24チャーフィーは、軽戦車ながら75ミリ砲を搭載している上に優秀な機動力を備えており、かき回されると厄介だ。したがって、プラウダ高校としては、このM24が活躍できないような展開に持ち込むことが重要になる。

注目戦車：T-34/85

プラウダ高校の出場車輌の中では、T-34/85に注目したい。生産数が多い、ありふれた車輌と捉えられがちだが、バランスの良い性能を持つ傑作戦車だ。プラウダ高校の屋台骨を支える車種であり、隊長のカチューシャ選手の愛車でもある。ヴァイキング水産が新たに導入したM24への対策としてもっとも有力視される戦車だ。





カチューシャ隊長 試合前コメント

新型戦車？ そんなものを入れてこのカチューシャに勝てると思ってるの？ カチューシャたちの目標はただ一つ。「スチームローラー」のように立ち塞がるものすべてを蹂躙して、ペリメニの中身みたいにぐっちゃんぐっちゃんにひき潰して、栄光の頂点にプラウダの旗を立てることなんだから！

試合展開

序盤戦

試合会場は、森の中を川が流れており、雪がかなり積もっているステージ。プラウダ高校側の川岸（左岸）は、すぐそばまで山が迫っている。ヴァイキング水産高校側の川岸（右岸）は、地面が軟弱で、その先は河岸段丘になっていて階段状の高低差がある。川の水深が浅く渡河が可能な地点は限られており、その右岸（つまりヴァイキング水産側）は森が開けていて見通しが良い。積雪地での戦いは両校ともに慣れており、とくに問題はない。ただし、ヴァイキング水産は装甲の薄い戦車が多いので、プラウダ高校の戦車に遠距離から撃たれても撃破される可能性がある。また、ヴァイキング水産が左岸（つまりプラウダ高校側）に渡河しても縦横に機動できる平地が無いので、プラウダ高校の戦車の側背に回り込むことはむずかしい。

そこでヴァイキング水産の戦車は、渡河地点の先の森の端に布陣して、プラウダ高校の戦車が川を渡ってくるのを待ち構えることにした。そしてプラウダ高校の戦車が河岸段丘を乗り越えてきたら、正面からIII号J型で牽制しつつ、M24を突進させて側背からの近距離砲撃で勝負をつける、という作戦だ。

中盤戦

対するプラウダ高校は、対岸を警戒しつつ渡河地点まで前進すると、T-34／85部隊やIS-2が対岸に主砲を向けて警戒する中で、まずフラッグ車以外のT-34／76部隊に川を渡らせた。次にT-34／76部隊が警戒する中で、残りの戦車を渡河させた。ヴァイキング水産は河岸段丘の上に布陣しているので、渡河中のプラウダの戦車は視認できない。渡河地点は限られているので必要ないと判断したのか、偵察の戦車も見当たらなかった。

プラウダ高校の全車輌が無事に渡河を終えると、カチューシャ隊長は、先に渡河したT-34／76部隊に泥濘に注意して慎重に前進するよう指示。T-34／76部隊は河岸段丘をゆっくりと登っていった。

ヴァイキング水産高校（岩手）

戦力分析



ヴァイキング水産高校は、夏の全国大会の2回戦では、軟弱な泥濘地を避けて足場の良い市街地での接近戦を選択した。戦車による市街地でのゲリラ戦が狙いだ。ところがプラウダ高校は、KV-2搭載の152ミリ砲でヴァイキング水産が潜む建物を吹き飛ばし、さらに強力な重戦車であるIS-2を投入する容赦の無さでヴァイキング水産を戦術もろとも粉砕した。

そこでヴァイキング水産は、限られた予算の中でまず火力の向上を優先し、軽戦車ながら39口径の75ミリ砲を搭載しているアメリカ製のM24チャーフィーを導入した。この75ミリ砲ならば、プラウダ高校のT-34系列でも側背に回り込んで接近すれば撃破できる。装甲は薄いが、非常に軽快で小回りの効く戦車なので、使い方しだいではプラウダ高校に一泡吹かせることもできるはずだ。また、長砲身の60口径の50ミリ砲を搭載しているIII号戦車J型は、T-34/76相手ならば、そこそこ戦える。NbFzは、24口径の75ミリ砲と45口径の37ミリ砲を搭載しているのだが、機動力が低く、装甲が薄いので、あまり役に立たないだろう。機関銃搭載II号戦車B型は偵察くらいしか使いみちが無い。

使用車輌数：10輌

III号戦車J型×4　　NbFz×1
M24チャーフィー軽戦車×4　　II号戦車B型×1



注目戦車：NbFz

ヴァイキング水産高校の出場戦車では、ノイバウファールツォイク（ドイツ語で新型車輌の意）に注目したい。これは開発名称で「NbFz」と略記されることが多い。第二次世界大戦前にドイツで開発された多砲塔戦車で、軟鉄製の試作車が2輌、鋼製の増加試作車が3輌、計5輌のみ生産された非常にレアな車輌だ。



試合展開

後半戦〜決着



ヴァイキング水産のM24とIII号J型は、プラウダ高校の戦車が姿を現すのをジリジリしながら待っていた。そしてT-34/76部隊が稜線を越えて姿を現すと同時にダッシュし、砲撃を加えつつ猛スピードで突進していった。ここでプラウダ高校のカチュ[illegible]シャ隊長は、後続の[illegible]段[illegible]の影をすばや[illegible]距離を詰め[illegible]右旋回[illegible]のT-34/85やIS-2は、一挙に[illegible]離からの行進間射撃でM24とIII号J型を次々と撃破。これを巨大モニターで見ていた観客席のプラウダの生徒たちから「ウラー！」と歓声があがる。

勢いに乗るカチューシャ隊は、そのままヴァイキング水産のフラッグ車のNbFzに突進。すると、生き残りのM24が2輌反転して来て立ちはだかったが、間髪を入れずにクラーラ選手のT-34/85が1輌を撃破。唯一生き残ったM24はカチューシャ隊長のT-34/85を狙ったが、ノンナ選手のIS-2が体当りして射線をそらす。その直後にカチューシャ隊長のT-34/85がNbFzを撃破し、プラウダ高校が勝利を収めた。観客席のプラウダ高校の生徒たちがノンアルコール・ウォッカをラッパ飲みして祝杯をあげ始めたことは言うまでもない。



試合結果

○ プラウダ高校（青森）
×
× ヴァイキング水産高校（群馬）

ターニングポイント



装甲の薄い戦車が多いヴァイキング水産高校は、渡河可能地点の先の河岸段丘の上に布陣してプラウダ高校を待ち受けた。対するプラウダ高校は、川の浅瀬を渡ると、まずT-34/76部隊を囮として前進させた。これを待ち構えていたヴァイキング水産のM24やIII号J型が食いついて突進すると、その間に主力は河岸段丘の陰を進んで側面に回り込み、カチューシャ隊長自ら先頭に立って稜線を越えた。

勝利校隊長試合後コメント

プラウダ高校：カチューシャ

見なさい！カチューシャの大勝利よ!! なによ、プラウダらしくない？ まぁ、いつもみたいに正面から踏み潰すのもいいけど、カチューシャだっていろいろ試してみたいことはあるんだから。カチューシャもプラウダもまだまだ強くなるんだから、こんなところで止まってられないわ！

試合のポイント



繰り返しになるが、ヴァイキング水産高校は、今回の大会前に新たにM24チャーフィー軽戦車を導入した。そのM24の火力と機動力をうまく活用できていれば、あるいは勝機が掴めたかもしれない。とは言え、例えばプラウダ高校の渡河中に突撃をかけても、川岸付近は軟弱地で縦横に機動することは困難だ。M24は装甲が薄いので、泥濘にはまったところを対岸のT-34/85やＩS-2に狙い撃ちされたらひとたまりもない。そこでヴァイキング水産は、プラウダ高校の戦車が開けた場所に出てくると同時にダッシュして背側に回り込む、という作戦を採ったわけだ。

だが、プラウダ高校のカチューシャ隊長は、（夏の全国大会の準決勝で大洗女子学園を罠にはめた時と同じように）T-34/76部隊を囮に使って、ヴァイキング水産を罠にはめた。今大会のマジノ女学院対黒森峰女学園の試合では、マジノ女学院のソミュアS35を黒森峰女学園のパンターG型が性能と設計思想の差で押し切ったが、プラウダ高校はヴァイキング水産のM24をT-34/85の性能で叩いたわけではない。巧妙な作戦で相手を罠にはめて勝ったのだ。もちろん戦力的には最初からプラウダ高校が圧倒的に優位だったが、それ以上にカチューシャ隊長の作戦立案能力が光った試合であった。

ワンポイントコラム ノルウェーに縁のあるヴァイキング水産高校の戦車　文：田村尚也

第二次世界大戦中の1940年3月、ドイツ軍は新たに第40特別任務戦車大隊を編成し、同年4月に開始されたノルウェーおよびデンマーク進攻作戦に投入した。この戦車大隊は、戦車3個中隊基幹で、I号戦車とII号戦車を主力としていた。このうち、大隊本部と第1および第2中隊はデンマークに送り込まれたのちにノルウェーに移動し、第3中隊は船で直接ノルウェーに輸送された。次いで、同大隊の直轄部隊としてNbFzの増加試作車3輌を装備する戦車小隊（のちに隊長のホルストマン中尉の名前からホルストマン小隊と呼ばれるようになる）が配属され、ノルウェーのオスロに船で送り込まれた。

この作戦では、ドイツ海軍の艦艇部隊が大損害を出したものの、陸軍の地上部隊に大きな損害はなかった。第40特別任務戦車大隊のNbFzは、1輌が移動中に故障で立ち往生し道をあけるために爆破されたが、2輌が生き残ってドイツに帰還。のちのソ連進攻作戦に参加して緒戦で撃破されている。

また、ノルウェーは、第二次世界大戦後にアメリカからM24チャーフィー軽戦車の供与を受けて主力戦車として運用した。さらに1975年から、既存のM24にフランス製の90ミリ低圧砲（砲弾を撃ち出す際の圧力が低い砲）や燃[illegible]の良いディーゼル・エンジンを搭載するなどの改修を加えたNM-116を導入している。

このようにヴァイキング水産高校の戦車は、ノルウェーに縁のある車種が多数揃っているのだ。

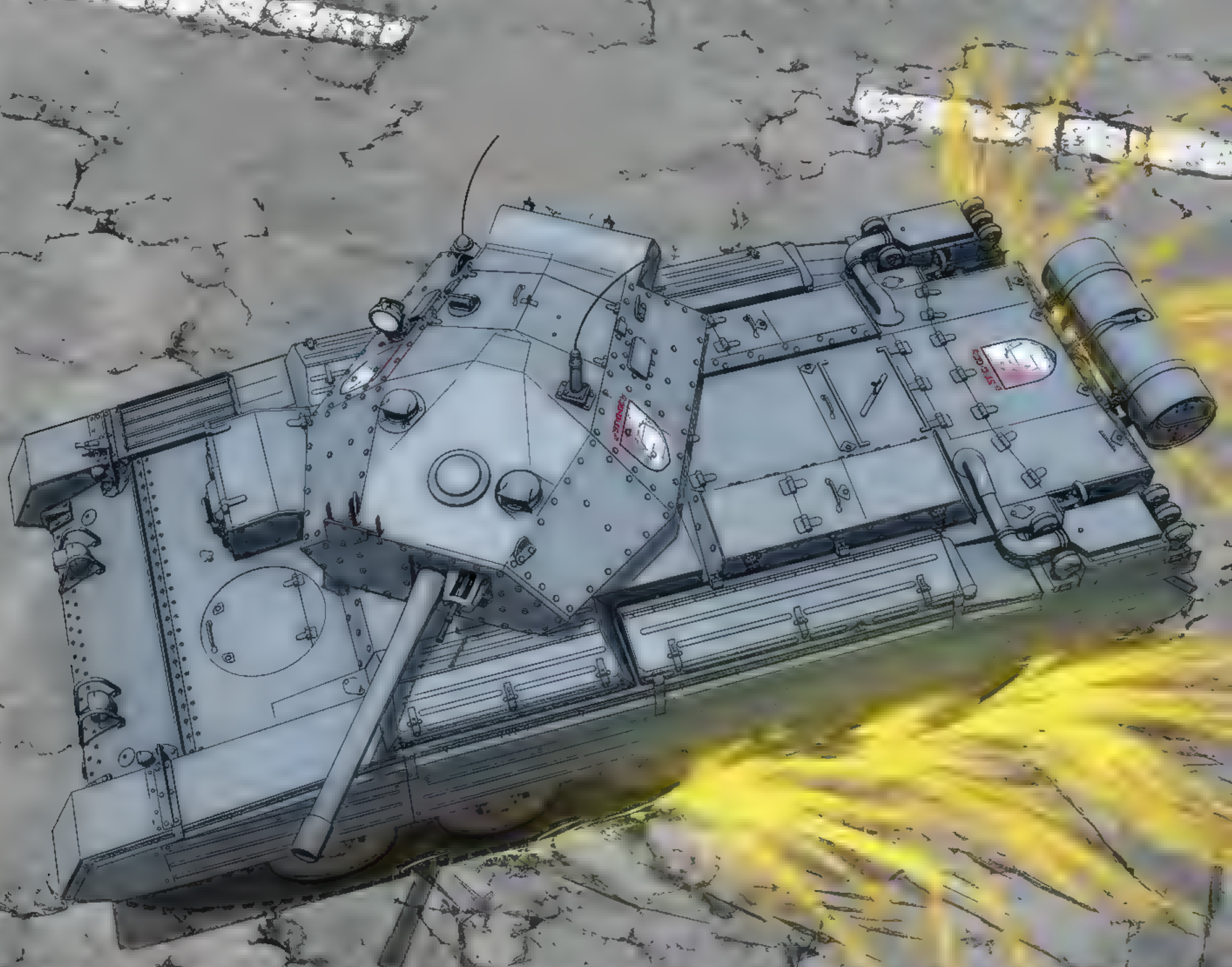
II号戦車B型
写真提供：グランドパワー（ガリレオ出版）



第41回冬季無限軌道杯1回戦 全試合解説

第7試合

ワッフル学院(兵庫) × 聖グロリアーナ女学院(神奈川)



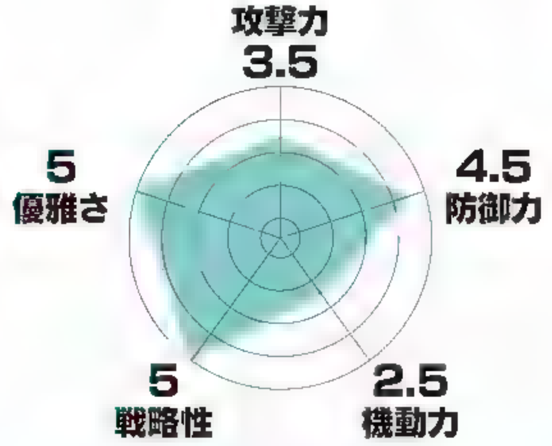
1回戦の第7試合は、ワッフル学院と聖グロリアーナ女学院の対戦となった。聖グロリアーナは、夏の全国大会では準決勝まで進出したが、強豪校の黒森峰女学園と対戦して敗れた。しかし、その黒森峰を決勝戦で倒して同大会で優勝した大洗女子学園を、練習試合で破っている事実がある。これを見てもわかるように、聖グロリアーナは、まぎれもない強豪校の一つなのだ。一方、ワッフル学院は、ベルギーをリスペクトしている学校で、夏の全国大会では1回戦でヨーグルト学園と対戦し、正面からの砲撃戦で敗れている。しかも、その勝ったヨーグルトも、次の2回戦で聖グロリアーナに敗れている。つまり、ワッフルと聖グロリアーナの間には、歴然とした実力差がある。聖グロリアーナは、強豪校の中でも試合巧者という点では群を抜いており相手の奇襲、奇策に動じない盤石な試合運びにも定評のある学校だ。その聖グロリアーナ相手に、ワッフルがどこまで食い下がれるのか。同校の健闘を期待したい。

編集部注：各校戦車の都合により、一部検閲がかかっている場合があります。ご了承下さい。

聖グロリアーナ女学院（神奈川）

使用車輌数：10輌

チャーチル×1
マチルダII×5
クルセイダー×4



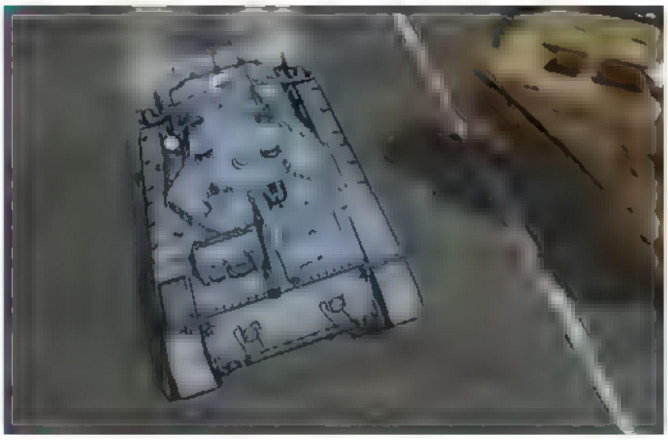


戦力分析

聖グロリアーナ女学院の出場車輌は、低速だが重装甲の歩兵戦車と、装甲は薄いが快速の巡航戦車を、ほぼ同数組み合わせたバランスの良いもので、隙の無い編成と言える。火力に関しては、75ミリ砲搭載のチャーチルが最大で、次いで6ポンド砲（口径57ミリ）搭載のクルセイダー、最小は2ポンド砲（口径40ミリ）搭載のマチルダIIだ。ただし、そのマチルダIIでも、M4シャーマン以外のワッフル学院のすべての車輌を1000ヤード（約914メートル）の遠距離からでも撃破可能だ。問題となりそうなのはM4シャーマンだが、105ミリ榴弾砲型で移動目標の撃破は現実的ではなく、成形炸薬弾を使ってもマチルダII以上の重装甲を誇るチャーチルを正面から撃破するのは困難だ。したがって、聖グロリアーナ側のM4シャーマン対策は、チャーチルが正面で相手の注意を引き付けつつ、クルセイダーを側面に回り込ませる、といった手でくることが予想される。M4シャーマンの側面装甲は比較的薄いので、クルセイダー搭載の6ポンド砲でも遠距離から撃破可能だ。

注目戦車：クルセイダー巡航戦車

聖グロリアーナ女学院の出場車輌の中では、クルセイダー巡航戦車に注目したい。生産数がとくに少ないわけではなく、比較的ありふれた車輌だが、ワッフル学院の主力のAMC35は機動力が高く、鈍足の歩兵戦車では捕捉がむずかしいので、快速のクルセイダーで対応することになるだろう。したがって、この試合ではとくに重要な車輌と言える。





ダージリン隊長 試合前コメント

こんな言葉を知っている？「忍耐し、我慢しさえすれば、やがて良くなることを私は疑わない」。私たちはやるべきことを着実に積み上げていますの。無限軌道杯はそれの証明。この試合でも聖グロリアーナの戦車道を見せて差し上げますわ。

試合展開

序盤戦

試合会場は、市街地の外に森が点在している平坦地で、市街中央を大きな河が流れているステージ。市街地内は大河にかかる鉄橋上などをのぞいて見通しが効かない地形だ。

聖グロリアーナ女学院にとっては、市街地での接近戦で、ワッフル学院のM4シャーマンに至近距離から撃たれると危険なので、できれば市街地外で捕捉したいところだ。しかし、鈍足のチャーチルやマチルダIIで、ワッフルの快速のAMC35の先手をとるのはむずかしい。かと言って、快速のクルセイダーだけを突出させると、今度はM4シャーマンの待ち伏せやAMC35の突進を組み合わされた場合にやっかいだ。

そこで聖グロリアーナのダージリン隊長は、[redacted]を選んだ。具体的には、ワッフルのAMC35やT-15に対しては、[redacted]。M4シャーマンに対しては、[redacted]。フラッグ車はマチルダIIとし、[redacted]、というものだ。

試合が始まると、聖グロリアーナ女学院は、[redacted]、という隊形で前進を開始。それを観客席から見ていた同校の生徒は優雅に紅茶を淹れ始めた。

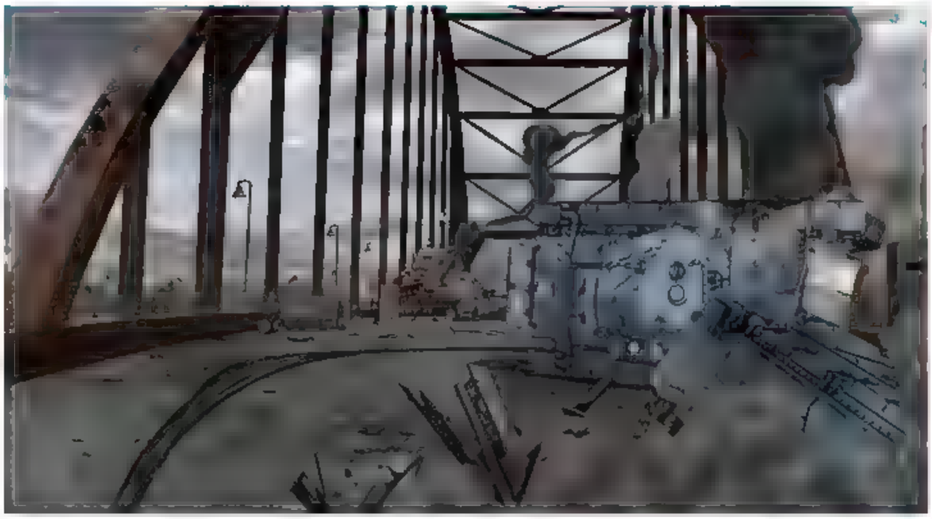
中盤戦

これに対してワッフル学院は、軽快で小回りの効くT-15を先行させて、損害を出しつつも聖グロリアーナの動向を把握。次いで、森の中で待ち伏せしていたワッフルのM4シャーマン2輌が、聖グロリアーナの[redacted]クルセイダー隊を引きつけてから砲撃し、見事1輌を撃破した。すると、残る3輌のクルセイダーが森に向かって各個に突進し始めたが、無線でダージリン隊長の指示があったのか、すぐに急停止。前進してきたチャーチルの支援砲撃の下、クルセイダー隊は整然と左右に分かれてシャーマンを包囲する動きを見せた。すると今度は、別の森の中に隠れていたワッフルのAMC35隊が、[redacted]マチルダー隊を奇襲。フラッグ車護衛のマチルダIIを1輌撃破した。

だが、マチルダII隊は沈着冷静に反撃を開始。AMC35隊は2輌を撃破され、聖グロリアーナのフラッグ車に近づくことすらできない。残存車輌は速度の差を活かして市街地に転進した。

ワッフル学院（兵庫）

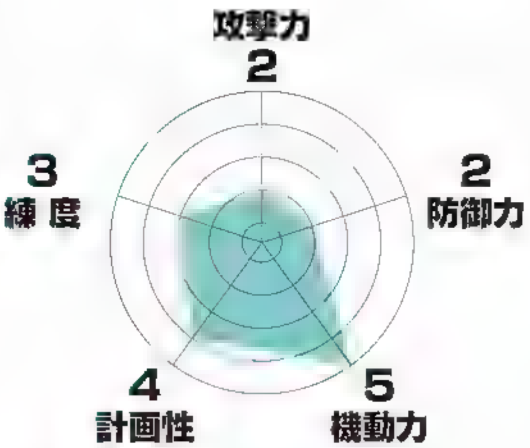
戦力分析



ワッフル学院の主力は、フランスのルノー社で開発されたAMC35（メーカー呼称AGC1）戦闘装甲車にベルギー国産の47ミリ砲を搭載した車輌。この47ミリ砲なら、装甲が比較的薄いクルセイダー巡航戦車なら距離500メートル以上でも撃破可能。重装甲のマチルダII歩兵戦車でも150メートル以下の近距離なら撃破できる。一方、同校のM4シャーマン中戦車は、105ミリ榴弾砲搭載型で、本来は火力支援用で対戦車戦闘用ではない。それでも成形炸薬弾を使用すれば距離に関係なく100ミリ以上を貫通できる。ただし、短砲身の榴弾砲なので初速（弾丸を撃ち出す速度）が遅く、弾道が山なりなので、戦車のような移動目標に命中させることがむずかしい。残るT-15軽戦車は、イギリスのヴィッカーズ社製の小型軽快な豆戦車の車体に、フランスのオチキス社製の13.2ミリ重機関銃を装備するベルギー製の砲塔を搭載したもの。小銃と同口径の機関銃を搭載している豆戦車よりは強力だが、偵察などに使うのがせいぜいだろう。

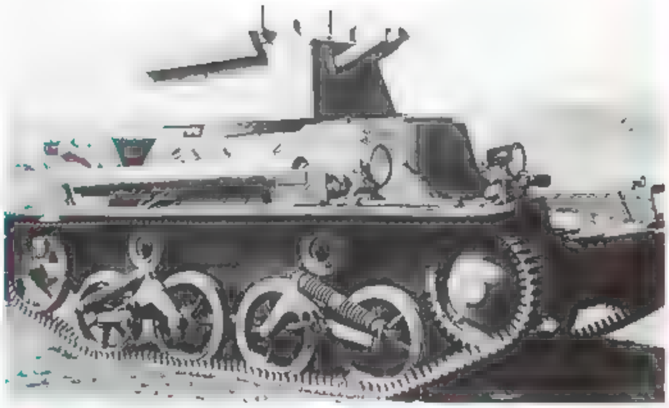
使用車輌数：10輌

AMC35（AGC1）×4
ヴィッカーズT-15×4
M4中戦車（105ミリ榴弾砲）×2



注目戦車：ヴィッカーズT-15

ベルギー軍仕様のAMC35は、総生産数が試作車も含めて10輌だけの非常にレアな車輌だ。ただし、この車輌はフランス軍にも採用されているので、ここはベルギー軍独自の車輌であるT-15に注目したい。非力な軽戦車だが快速で、ベルギーをリスペクトする同校の生徒は誇りを持ってこの車輌に乗っているはずだ。



参考 ヴィッカーズT-15の元になった
ヴィッカーズMk.III軽戦車試作車輌
写真提供：グランドパワー（ガリレオ出版）

試合展開

後半戦〜決着

マチルダー隊は、フラッグ車を後方に控えさせつつ、AMC35隊を追った。しかし、AMC35隊は、残存のT-15と合流し、鉄橋上に障害物を設置してマチルダII隊と撃ち合いを始めた。

一方、チャーチルとクルセイダー隊は、ワッフルのM4シャーマン2輌の撃破と引き換えにクルセイダーを1輌喪失。すぐに残ったクルセイダーを鉄橋に急行させると、チャーチルもこれを追った。

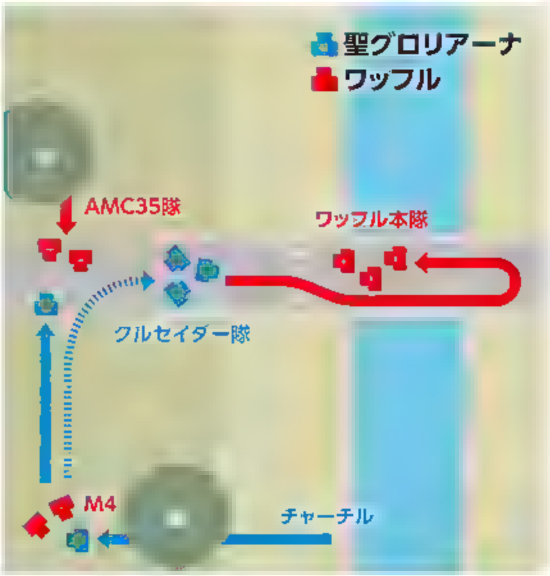
その間に鉄橋上では、ワッフルは白旗を上げたT-15が盾になる幸運もあってマチルダIIを1輌撃破。ここでようやく到着した最初のクルセイダーは、AMC35の1輌と相討ちとなった。残るAMC35はフラッグ車のみ。ここでダージリン隊長は、最後のクルセイダーの車長のローズヒップ選手にチャーチルの到着を待つよう指示したが、ローズヒップ選手はそのまま突進。ワッフルのフラッグ車のAMC35に撃破されてしまうが、その直後に到着したチャーチルがワッフルのフラッグ車を撃破。観客席では、勝利を祝う聖グロリアーナの生徒がティーカップで優雅に乾杯を交わす姿が見られた。



試合結果

× ワッフル学院（兵庫）
×
○ 聖グロリアーナ女学院（神奈川）

ターニングポイント



ワッフル学院は、図のM4シャーマンで聖グロリアーナ女学院の先鋒のクルセイダー隊を攻撃して足止め。その間にAMC35隊で、聖グロリアーナの後方のマチルダ隊を奇襲したが失敗。市街地に逃げ込んで橋の上に障害物を設置し、消耗戦に持ち込んで最後の突撃のチャンスをうかがった。しかし、M4シャーマンを撃破して反転してきたクルセイダー隊とチャーチルが合流し、万事休す。

勝利校隊長試合後コメント

聖グロリアーナ女学院：ダージリン

苦戦？ そうですわね、人によってはこの試合、そのようにも見えるのでしょうね。ですが、試合前にも申し上げた通り、私たちはやるべきことを積み上げているだけ。「あらゆる偉業の出発点は目標を明確にすること」また次の試合でお逢いしましょう。

試合のポイント



ワッフル学院側から試合を振り返ってみると、M4シャーマンを囮にクルセイダー隊やチャーチルを引き付けた隙に聖グロリアーナのフラッグ車であるマチルダⅡをAMC35隊で奇襲するという作戦が、少なくとも途中まではうまくいった。だが、その千載一遇のチャンスにフラッグ車を撃破できずに終わっている。また市街地では、残存車輌の多い聖グロリアーナに側背に回り込まれないように鉄橋上に布陣し、相手フラッグ車に突撃するチャンスを再び掴むかに見えた。しかし、ここで増援のクルセイダーが到着し、さらにはチャーチルの到着を許してしまった。ワッフル学院の命運はこの時点で尽きてしまった。

聖グロリアーナ側から見ると、ワッフルのM4シャーマンを片付けるのに手間取ったが、市街地で戦うと厄介なM4を市街地外で包囲して確実に撃破する、という判断は結果としては正しかった。その間にマチルダ隊が奇襲を受けたものの、フラッグ車への攻撃は護衛のマチルダⅡが防ぎきっている。一見すると、聖グロリアーナの僅差の勝利にも思えるが、試合中のどの時点でも聖グロリアーナ側の残存車輌数がワッフル側の残存車輌数を上回っており、奇襲、奇策に強い聖グロリアーナの長所が光る危なげない勝利だったと言えよう。

ワンポイントコラム マーケット・ガーデン作戦

文：田村尚也

今回の試合会場のとくに鉄橋の周辺は、第二次世界大戦後半の1944年9月に米英連合軍（自由ポーランド軍なども含む）が開始した「マーケット・ガーデン作戦」での激戦地のアーネム（アルンヘム）によく似ている。

この作戦は、空挺師団3個などを空挺降下させて長さ100キロにもおよぶ進撃路を確保し、そこを地上部隊である1個軍団が一気に突進する、という野心的なもの。その中でももっとも遠いアーネムの街でネーデルライン川にかかる鉄橋は、イギリス第1空挺師団が確保することになっていた。

ところが、アーネムの近くでは、ドイツ軍の武装親衛隊の精鋭である第9SS装甲師団などが休養再編成中であり、イギリス第1空挺師団と激戦を繰り広げることになった。なかでも、イギリス第1空挺師団の第1パラシュート旅団第2大隊は橋の北側を早期に確保し、橋を渡ろうとした第9SS装甲師団の装甲偵察大隊を携帯対戦車火器などで撃退するなど奮闘を続けた。この戦いは、映画『遠すぎた橋』でもドラマチックに描かれており、今回の試合の橋の上での戦いにもよく似ている（なお、この橋は、のちに第2大隊長のジョン・フロスト中佐にちなんで「ジョン・フロスト橋」と名付けられている）。

しかし、連合軍の地上部隊の進撃はドイツ軍の反撃などによって遅れに遅れ、イギリス第1空挺師団は撤退することになった。つまり、イギリス軍が負けたのだが、今回の試合では皮肉なことにそのイギリスをリスペクトする学校が勝利したわけだ。



アーネムに展開する英陸軍第1空挺師団

写真提供：グランドパワー（ガリレオ出版）

第41回冬季無限軌道杯1回戦 全試合解説

第8試合 アンツィオ高校（栃木）×ボンプル高校（福井）



1回戦最後の試合は、アンツィオ高校とボンプル高校の対戦となった。アンツィオ高校は、イタリアをリスペクトしていることでよく知られている学校だ。夏の全国大会では、1回戦でマジノ女学院と対戦。快速のCV33で撹乱し、セモヴェンテでフラッグ車を狙う作戦で勝ったが、2回戦、大洗女子学園戦ではデコイを使った欺瞞作戦が失敗し、大会から姿を消した。対するボンプル高校は、ポーランドをリスペクトしている学校で、同国にゆかりのある車輌を使っている。その影響なのか、豆戦車や軽戦車が中心で他校と比べ戦力の充実に欠けることは否めない。事実、夏の全国大会では、1回戦でプラウダ高校の罠にはまって全滅し敗退している。強豪校とは決して言えない両校だが、それぞれ限られた戦力の中で、どのような作戦を取ってくるかと考えると、なかなか興味深い一戦だ。両校の戦術に注目したい。

編集部注：各校隊長の意向により、一部検閲がかかっている場合があります。ご了承下さい。

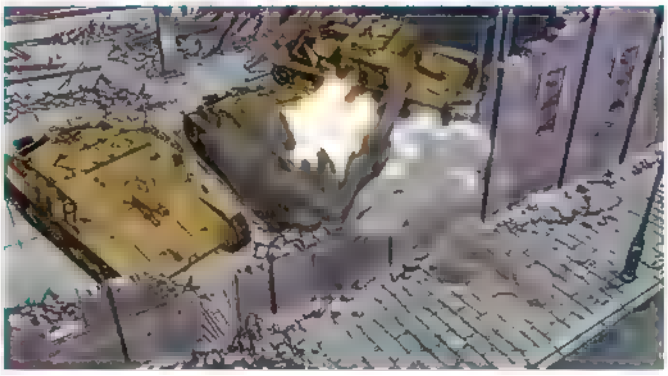
アンツィオ高校（栃木）

使用車輌数：10輌

P40型重戦車
M41型セモヴェンテ
CV33型快速戦車







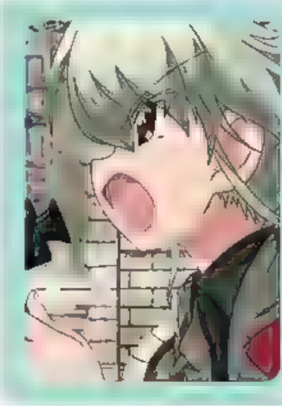
戦力分析

アンツィオ高校の出場車輌を見ると、夏の全国大会の1回戦までは、機関銃搭載で対戦車火力がほとんど無いCV33型快速戦車と、無砲塔のM41型セモヴェンテの組み合わせで、回転砲塔に火砲を搭載したまともな戦車が1輌もない、というアンバランスな編成だった。しかし、夏の全国大会の2回戦から、回転砲塔に75ミリ砲を搭載したP40型重戦車が加わり、戦力が大きく向上した。例えばP40に搭載されている34口径75ミリ砲は、ボンプル高校の出場車輌ならば全て1000メートル以上の遠距離でも命中すれば撃破できる。また、P40の装甲はボンプル高校のどの車輌よりも厚く、防御力でも優位に立っている。またセモヴェンテは、短砲身で低初速の18口径75ミリ砲搭載で移動目標への射撃は得意ではないが、ボンプル高校の出場車輌ならば命中すれば遠距離でも撃破可能だ。機関銃搭載のCV33は、対戦車火力はほとんど無いが機動力は高いので、偵察や牽制、撹乱などには使える。アンツィオ高校がこれほど有利な試合はめったに無いだろう。

注目戦車 P40

アンツィオ高校の出場車輌の中でもっとも注目されるのは、やはりP40型重戦車だろう。第二次世界大戦中にイタリアで唯一量産された重戦車だ。ただし不安もある。アンツィオのP40は故障中で資金不足で直すことができないといううわさもある。出場できるかどうかがカギになりそうだ。





アンチョビ隊長 試合前コメント

我々アンツィオは決して弱くない！ P40さえ間に合えば、我ら悲願の2回戦突破、いや、ベスト4、いやいやもっと大きく優勝だって可能だ！ 皆、アンツィオの勇姿に恐れ入れ！

試合展開

序盤戦

試合会場は、東欧風の古い石造りの市街地の廃墟で、その中央部を流れる川に大きな橋が2本かかっているステージ。道路は石畳なので機動力を発揮しやすく、大通り沿いなど一部の例外を除いて見通しがきかないので、建物の影などを遮蔽物として利用する1ブロック単位の接近戦にならざるをえない地形だ。

そこでボンプル高校は、ただでさえ弱体な戦力をなるべく分散させず、アンツィオ高校のフラッグ車を発見したら見通しの悪い地形を活かして接近し、至近距離から集中的に砲撃する、という作戦を立てた。

対するアンツィオ高校は、P40やセモヴェンテの火力や防御力の優位を活用したいところだが、セモヴェンテは旋回砲塔を持っていないので市街地での接近戦に問題がある。ただし、同校のカルパッチョ選手が乗るセモヴェンテは、夏の全国大会の2回戦では大洗女子学園のIII号突撃砲と格闘戦を繰り広げるなど、接近戦を苦にしていないようだ。そこでアンチョビ隊長は、カルパッチョ選手のセモヴェンテをフラッグ車として残りのセモヴェンテを護衛とし、小型軽快なCV33でボンプルのフラッグ車を探し出して切り札のP40で撃破を狙う、という作戦を立てた。

そして試合が始まると、まずCV33隊が橋を渡り、ボンプル高校のフラッグ車を捜索するために快速を活かして四方に散っていった。これを見た観客席のアンツィオ高校の生徒たちから「フォルツァー！ アンツィオー！」の応援コールが響く。

中盤戦

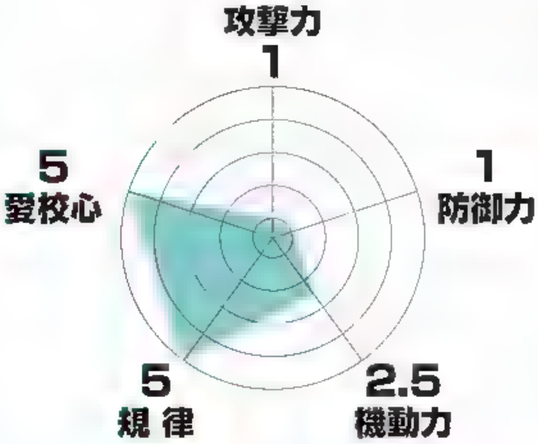
アンツィオ高校のセモヴェンテ隊は、CV33隊に続いて橋を渡ると、CV33隊がチェック済みの道路と、見通しが良い大通りの交差点付近という比較的安全な場所で停止。またP40はさらに後方の橋の手前で待機し、CV33からの偵察報告を待った。

対するボンプル高校は、小型で軽快なTKSを先頭に市街地を前進。アンツィオ高校のCV33の接近を察知すると、横丁の目立たない小道に隠れてやり過ごし、再びアンツィオのフラッグ車を探して前進を続けた。すると、幸運なことにアンツィオのセモヴェンテ隊と遭遇し、その中にフラッグ車がいるのを発見。ボンプル高校は、フラッグ車のルノーFTを除く全車で攻撃を開始し、ルノーFTは退避を始めた。

この時、アンツィオ高校のカルパッチョ選手は、転進したルノーFTを目撃しており、CV33隊を率いるペパロニ選手とアンチョビ隊長にこれを連絡。CV33隊はルノーFTの捜索を続けるとともに、アンチョビ隊長の乗るP40も別の橋を通ってルノーFTの逃げ道をふさぎつつ捜索を開始した。

使用車輌数：10輌

ルノーFT×1	7TP双砲塔型×2
9TP×1	TKS×2
7TP単砲塔型×4	



ボンプル高校（福井）



注目戦車：9TP

ボンプル高校の出場車輌で注目されるのは、夏の全国大会からただ1輌参加している9TPだ。この戦車は、7TPをベースにエンジンを換装して車体を溶接構造とし、装甲を強化したもので、開発時には「7TP強化型」と呼ばれていた。総生産数は試作車2輌も含めて計13輌と伝えられている非常にレアな車輌だ。（写真は左から7TP双砲塔型、7TP単砲塔型、TKS）



戦力分析

ボンプル高校の出場車輌の中で、対戦車火力がもっとも大きいのは、もともとスウェーデンのボフォース社で開発された37口径37ミリ砲を搭載している7TP単砲塔型と9TPだ。この37ミリ砲は、例えば装甲が薄いIII号戦車やIV号戦車の初期型ならば距離800メートル程度の中距離でも正面から撃破可能で、登場時点では優秀な火砲だった。しかし、アンツィオ高校のM41型セモヴェンテやP40型重戦車は、それらの戦車よりも登場時期が遅く、装甲が強化されているので、力不足は否めない。また、ボンプル高校の機関銃搭載の7TP双砲塔型やTKSは、対戦車火力がほとんどない。ただし、小型軽快なTKSは偵察や牽制には役に立つはずだ。装甲は、7TPの単砲塔型と双砲塔型がともに最大17ミリ、TKSが最大10ミリと薄い。虎の子の9TPは最大40ミリに強化されたが、P40の最大50ミリ、セモヴェンテの最大50ミリに比べると劣っている。これではアンツィオ高校と比較すると戦力的には厳しいところだ。



マイコ隊長 試合前コメント

ジェン・ドブリィ（こんにちは）。私たちの戦車は確かに力が足りないかもしれません。性能を率直に比較すれば、勝率は3割にも満たないでしょう。ですが、我らが伝統の有翼重騎兵は、過去に何度も同様の勝率から逆転勝利をおさめてきました。勝負は戦車の性能だけではなく、中の人間も含めて決まるのです。

試合展開

後半戦～決着

アンツィオ高校のセモヴェンテ隊は、崩れた建物を遮蔽物に利用しつつ陣地を形成。ボンプル高校の主力と砲撃戦を展開し、ボンプル高校のTKSなどを撃破した。

対するボンプル高校の主力は、まずフラッグ車ではないセモヴェンテの戦闘室前面下端の装甲の継ぎ目に命中弾を与えて撃破。さらにもう1輌のフラッグ車ではないセモヴェンテの操縦手用小ハッチを狙って見事に撃破した。立て続けの戦果に、観客席のボンプル高校の生徒たちから大歓声があがる。

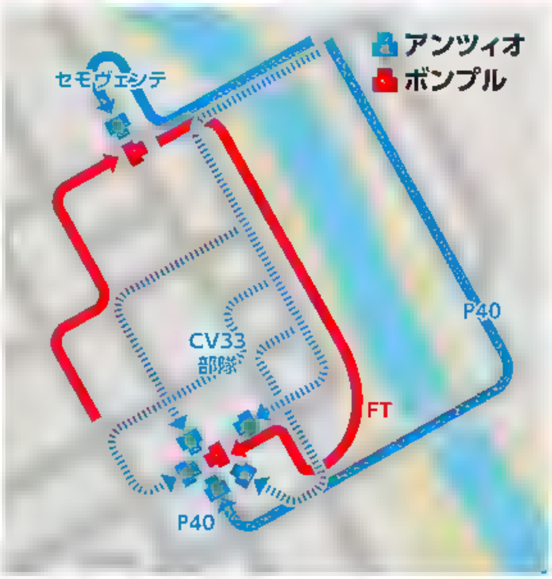
しかし、その間にアンツィオ高校のCV33隊は、ボンプル高校のフラッグ車のルノーFTを発見。アンチョビ隊長に発見を報告すると、スズメバチに群がるミツバチの蜂球のようにルノーFTを取り囲んだ。ルノーFTも、正面にのし上げたCV33を砲撃で吹き飛ばしたが、その眼前にはP40の姿。狙いすまされた一撃に白旗を上げるしかなかった。勝利を喜ぶ観客席のアンツィオ高校の生徒たちからは「ドゥーチェ」コールが繰り返され、やがて満足すると、ニコニコしながらアンチョビ選手の指示のもと、ボンプル高校の選手をもてなす大宴会の準備にとりかかるのであった。



試合結果

○アンツィオ高校（栃木）
×
×ボンプル高校（福井）

ターニングポイント



ボンプル高校の戦車隊は、アンツィオ高校のフラッグ車を含むセモヴェンテ隊と遭遇し、フラッグ車をのぞく全車で攻撃を開始。フラッグ車のルノーFTは退避し、アンツィオ高校のCV33隊の裏をかいて市街地を逃げ回った。しかし、ボンプル高校の主力は、アンツィオ高校のフラッグ車をなかなか撃破できなかった。その間にルノーFTは、CV33隊に囲まれて身動きできなくなり、P40に砲撃されて白旗を上げた。

試合のポイント

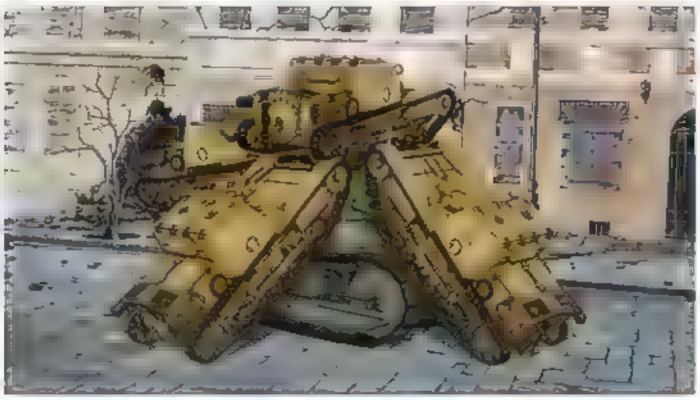
試合前は、豆戦車や軽戦車ばかりのボンプル高校に対して、珍しく戦力面で優位に立っているアンツィオ高校がかなり有利、というのが大方の見方であった。

ところが、試合が始まると、ボンプル高校の戦車隊は、アンツィオ高校のCV33隊の雑な偵察にも助けられて、相手のフラッグ車を含むセモヴェンテ隊に遭遇するという幸運に恵まれた。ボンプル高校が数の優位を活かして、7TP単砲塔型や9TPを、セモヴェンテの装甲が薄い側背に回り込ませれば楽に撃破できる。

しかし、セモヴェンテ隊は、崩れた建物の壁を遮蔽物として巧みに利用し、装甲の薄い側面や後面をカバーしつつ、ボンプル高校のTKSなどを返り討ちにした。それでもボンプル高校の7TP単砲塔型は、セモヴェンテの弱点を狙い撃ちしてフラッグ車以外の2輌を撃破し、意外にも白熱した戦いとなった。

こうしてセモヴェンテ隊が粘っている間に、CV33隊はボンプル高校のフラッグ車を発見。対戦車火力がほとんどない車輌で群がる、という常識外の方法で釘付けにすると、P40の一撃で勝負をつけた。

振り返ってみると、アンツィオ高校の強さが随所に出た試合だったと言える。



両校隊長試合後コメント

ボンプル高校：マイコ

完敗ね……。あんなわけのわからない作戦を取ってくるなんて予想もしていなかったわ……。はあ、PL－01さえ使えるようになれば私たちももっと強くなれるのかしら？ PT－91でも良いんだけど……。

アンツィオ高校：アンチョビ

やった、勝ったぞ！ 誰もケガしなかったし、戦車も壊されなかった。完璧な勝利だ！ それに、やっと、やっとあいつら作戦を覚えていてくれたんだ！ こんなにうれしいことはあるか？ ……今日は宴会だ！ 朝までやるぞ、みんな覚悟しておけよ！！

ワンポイントコラム アンツィオ高校の保有戦車

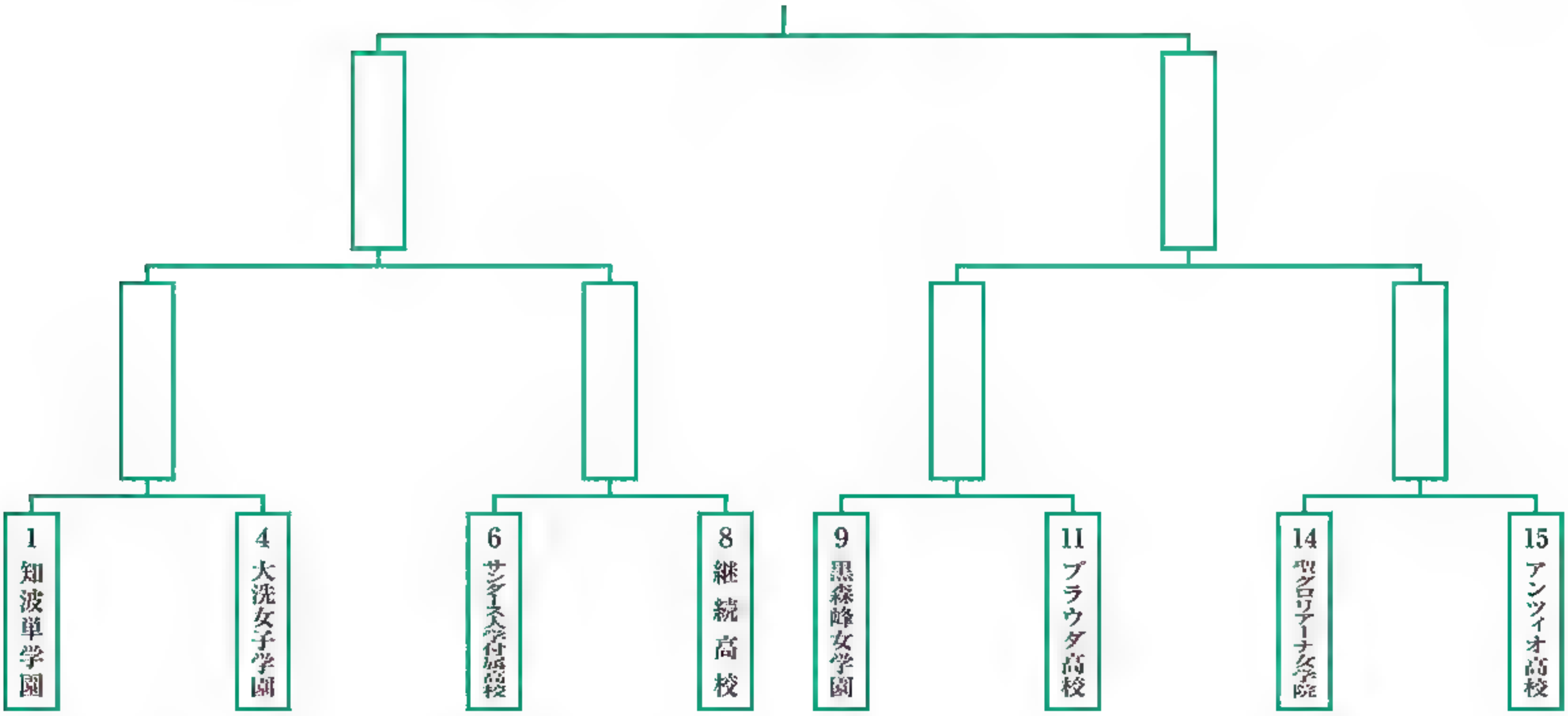
文：吉川和篤

アンツィオ高校が保有するイタリア戦車10輌は、車体開発時にソ連T34戦車の影響を受けてイタリア戦車として初めて傾斜装甲を採用し、強力な34口径75ミリ戦車砲を装備して独V号戦車と同等な戦力を有したP40型重戦車を筆頭に、小柄な密閉式戦闘室にパンチ力のある18口径75ミリ戦車砲を装備して、突撃砲的な使用で対戦車戦にも重用されたM41型セモヴェンテ（自走砲）と、機関銃装備ながら小回りを活かして偵察・警戒任務に活躍したCV33型快速戦車（豆戦車）の三種混合チームで、大型から小型に到る一見バランスが取れた構成に見える。しかし攻撃の要となるP40型が[illegible]しかなく、CV33型には対戦車能力が全くないので、ちょっとした故障や戦闘損耗で同校の戦力バランスは一気に崩れる恐れがあった。また、砲塔が無く車高の低い3輌のM41型は待ち伏せ攻撃は得意であったが、後ろや側面からの攻撃には対応が遅れるため、機動戦には不向きであった。さらに長砲身のP40型と短砲身のM41型では同じ75ミリ戦車砲でも砲弾の薬室部分の長さが異なり共有化がされておらず、CV33型はガソリンエンジン装備だが他の車輌はディーゼルエンジンで燃料の互換性も無かった。本来ならばCV33型を2～3輌減らして代わりに47ミリ戦車砲やディーゼルエンジン装備のM14型中戦車を導入して、攻撃側の強化を目指すべきであるが、恒常的に財政面で苦しい同校では、3時のおやつを減らしても実現はまだ先になりそうである。

P40
写真提供：グランドパワー（ガリレオ出版）



無限軌道杯2回戦対戦カード決定！
注目カードをチェック!!



1回戦の総評＆2回戦への期待

第63回戦車道全国高校生大会は、戦車道を久々に再開した大洗女子学園が強豪校を次々と破り、優勝するという波乱の結末となった。しかし、今回の無限軌道杯の1回戦では、黒森峰女学園、プラウダ高校、聖グロリアーナ女学院、サンダース大学付属高校といった強豪校がいずれも勝ち残り、大洗女子学園もBC自由学園を相手に勝利を収めた。また、全国大会で2回戦に進出したアンツィオ高校や継続高校も勝ち残っている。

結局、実績の少ない学校が、過去に多くの実績を残している強豪校を倒すような大番狂わせは無く、おおむね順当な結果になったと言える。波乱と言えるのは、最近は初戦敗退が続いていた知波単学園が1回戦を突破したことくらいだろう。

このように、試合の結果だけを見ると意外性の無いものになったが、試合内容に関しては見どころの多い試合が少なくなかった。初戦敗退となったチームも、それぞれの特徴に見合った戦術を採用して戦果をあげるなど、健闘を見せたチームが多い。また勝ち残ったチームも、例えば知波単学園は従来の突撃一本槍の戦術から転換して、相手チームの死角から側面に回り込む巧みな機動を見せるなど新境地に至った。そういった意味では、今大会の1回戦はレベルの高い充実したものだったと言えよう。

2回戦以降も引き続きレベルの高い試合を期待したい。

2回戦出場校ストロングポイント

知波単学園

知波単学園の最大のストロングポイントは、選手全員の士気と練度の高さであろう。それに加えて1回戦では、従来の突撃一本槍から転換して巧みな機動を見せるなど、戦術的な柔軟性が大きく増している。2回戦では、こうした戦術面にとくに注目したい。

サンダース大学付属高校

サンダース大学付属高校の得意な戦術は、シャーマン系列で統一された粒の揃った戦力による数の優位を生かした包囲だ。加えてケイ隊長のリーダーシップも光るものがある。2回戦では、そのストロングポイントをどのような形で使ってくるのかに注目したい。

黒森峰女学園

黒森峰女学園の最大のストロングポイントは、重戦車や重駆逐戦車を中心とする強力な火力だ。事実、1回戦も最終的には火力で勝負をつけている。2回戦は、火力の大きさではひけをとらないプラウダ高校との試合なので、豪快な火力戦を期待できそうだ。

聖グロリアーナ女学院

1回戦では、あえて相手チームに先手をとらせる作戦で勝利を収めた聖グロリアーナ女学院。その最大のストロングポイントはやはり、いかなる時も優雅で冷静さを失わないダージリン隊長の戦術能力であろう。その強みは2回戦でも遺憾なく発揮されるはずだ。

大洗女子学園

大洗女子学園のストロングポイントは、いまさら言うまでもないことだが、変幻自在の戦い方だ。戦車そのものの戦力では、強豪校である黒森峰女学園やプラウダ高校に比べると劣っているが、それをカバーして余りある。2回戦でも、ここが最大の注目点だ。

継続高校

継続高校の最大のストロングポイントは、やはりミッコ選手が操縦する隊長車の機動力だろう。先の大洗女子学園と大学選抜チームとの試合でも、今大会の1回戦でも、驚異的な機動を見せている。2回戦の対サンダース大学付属高校戦でも大きな注目ポイントだ。

プラウダ高校

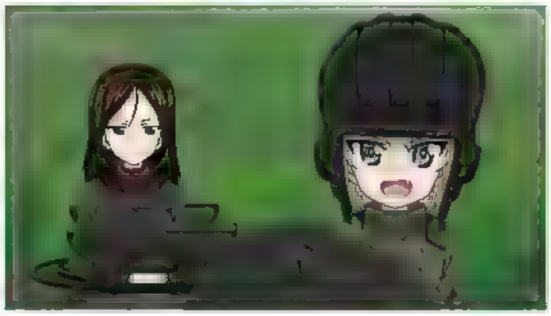
プラウダ高校には、バランスのとれた性能を持つ中戦車に大火力の重戦車を加えた強力な戦力の上に、カチューシャ隊長の作戦立案能力の高さという強みがある。1回戦の経過を見ても、それは明らかだ。以後の試合もポイントとなるのは、この点かもしれない。

アンツィオ高校

アンツィオ高校は、全国大会の途中から重戦車が増えたとは言え、強豪校に比べて戦力が劣ることは否めない。それでも、ノリと勢いに加えて、奇抜な作戦もあなどれない物を持っている（作戦の遂行には不安もあるが）。2回戦では、そこに注目したい。

注目カード1 第3試合 黒森峰女学園 × プラウダ高校





2回戦でもっとも注目される試合は、黒森峰女学園とプラウダ高校が対戦する第3試合だ。全国大会で一昨年度まで9連覇を続けていた学校と、昨年度の優勝校が激突する、という好カードであり、両校のOGを中心に「事実上の決勝戦」という声もあがっている。その昨年度の決勝戦では、プラウダが黒森峰を破って優勝を決めており、まさに因縁の対決と言える。しかも、その試合で黒森峰のフラッグ車を撃破したのは、プラウダの現隊長であるカチューシャ選手の戦車なのだから、雪辱を誓う黒森峰各選手の闘志は燃え上がっていることだろう。今回の大会前には、黒森峰の新隊長となった逸見エリカ選手の実力を不安視する声もあったが、1回戦ではマジノ女学院を相手に堅実な戦いぶりを見せた。次の試合は強豪のプラウダが相手とあり、逸見新隊長の真価が問われることになる。対するプラウダのカチューシャ選手は、昨年度の全国大会優勝の立役者として隊長になったが、一部からは実力で勝利した訳ではないという声も上がっている。そうした声を払拭するためにも、カチューシャ隊長は誰もが納得するかたちで黒森峰を倒さねばならない。おのずと白熱した試合になるはずだ。

注目カード2 第1試合 知波単学園 × 大洗女子学園

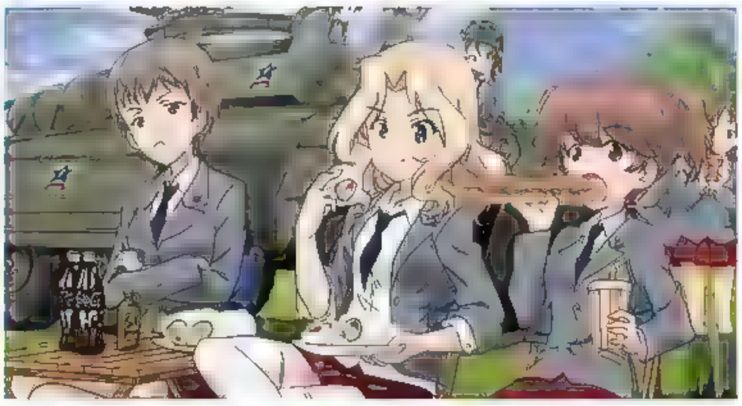




2回戦で第3試合の次に注目すべき試合としては、知波単学園と大洗女子学園が対戦する第1試合をおすすめしたい。大洗女子学園は、ご存知のように今年度の全国大会の優勝校であり、その変幻自在な戦いぶりで多くの戦車道ファンを何度も沸かせた。そして今大会の1回戦でも、Mk.IV戦車の車体をスロープ代わりにして窮地を脱出したり、相手チームの戦車の砲塔とよく似た砲塔を搭載する味方チームの戦車を使って撹乱したり、さまざまな奇策で再び多くの戦車道ファンを沸かせている。対する知波単学園は、最近まで初戦敗退が続いていたものの、今大会では既述のように戦い方を大きく変えて久々に1回戦を突破し、戦車道関係者を驚かせた。つまり、奇想天外な戦い方で優勝した学校と、今大会から変化を見せ始めた学校が対戦することになったわけだ。その両校が2回戦で果たしてどんな戦い方を見せるのか。とくに、ハードウェアである戦車そのものよりも作戦や戦術などのソフト面に興味がある戦車道ファンには、絶対に見逃せない試合だ。また戦車に関しても、知波単学園は、1回戦では使用しなかったが、特異な水陸両用戦車である特二式内火艇を保有しており、その使い方も大きな見どころと言える。

活躍注目校① サンダース大学付属高校

注目カードで取り上げた2試合に出場する計4校以外の注目校としては、まずサンダース大学付属高校をあげたい。同校は、夏の全国大会でも優勝候補の一つにあげられていたが、1回戦で大洗女子学園と対戦し、実力を十二分に発揮することなく敗退した。今大会では、1回戦に続いて、その実力を存分に発揮することを期待したい。



活躍注目校② 継続高校

最後にあげる注目校は、継続高校だ。夏の全国大会では、1回戦で青師団高校に勝利したものの、2回戦の不慣れな砂漠ステージでの試合で黒森峰女学園に敗れた。継続高校がサンダース大学付属と対戦する2回戦の試合ステージはまだ公表されていないが、できれば同校が得意としている寒冷地や湖沼地帯での実力を見てみたいところだ。



第10回 不肖・秋山優花里の 戦車講座



私たちだって国産戦車が欲しい！ 中堅国のオリジナル戦車

大国が開発した有名戦車以外にも、多くの珍しい戦車たちが存在しました。自国を守ろうと懸命だった中堅国で独自に開発された戦車の数々をご紹介します！

中堅国の戦車たち

無限軌道杯も2回戦に突入！ 各地で熱戦が繰り広げられていますが、全試合をこの目で観戦できないことが残念でならない秋山優花里です。

とくに1回戦ではコアラの森学園の「センチネル」を始め珍しい戦車が多数登場していましたよね。そこで今回は列強大国(英米独仏ソ日伊)の有名戦車に向うを張って、中堅国が独自に開発した戦車たちをご紹介したいと思います。ただ豆戦車(タンケッテ)は、以前ご紹介したので今回は省かせて頂きます。

北欧の雄スウェーデンの戦車

最初にご紹介するのは現在も武装中立を貫くスウェーデンです。その戦車開発にはドイツが大きく関わっています。第一次世界大戦で敗れ、戦車の開発を禁止されたドイツは、生産技術を保持するため中立国だったスウェーデンと秘密裏に提携。スウェーデンとしても最新技術が手に入るので渡りに船だったそうです。

まずはドイツ初の戦車「A7V」を開発したJ・フォルマー殿がスウェーデンに移り、敗戦直前に開発していた小型戦車「L.K.」を10輌生産します。これがスウェーデン初の戦車「Strv m/21」です。

続いてドイツの協力を得てランツベルグ社が設立され、1931年には軽戦車「L-10」を開発しました。この時のノウハウはドイツの「I号戦車」の開発にもフィードバックされたと言われています。

こうして経験を積んだスウェーデンは1934年、本格的な量産戦車「L-60」を完成させます。「L-60」は重量6・8トンの軽戦車で、主砲は20ミリ砲でしたが、これは当時では標準レベルの武装です。足回りには先進的なトーションバーを導入し、最高速度48キロと優れた機動力を発揮。その優秀さ故にハンガリーやアイルランドでも採用されました。

スウェーデンはその後も熱心に戦車開発に取り組み、1942年には「Strv m/42」を開発します。この戦車は重量22・5トン、75ミリ砲を搭載した列強の中戦車に匹敵する性能です。ただ国内ではパワーのあるエンジンが調達できず、160馬力のエンジンを2基搭載していました。

このようにスウェーデンは徐々に戦車の国産技術を高め、1960年代にはユニークな無砲塔戦車「Sタンク(正式名Strv103)」を生み出しました。

チェコの優秀戦車

スウェーデンと共に戦車開発に成功したのがチェコです。豆戦車の時にもご紹介しましたが、チェコはかつての大国、オーストリア・ハンガリー二重帝国の工業地帯。それゆえ工業力は十分でした。

カーデンロイド豆戦車のライセンス生産から始めたチェコは、1934年、重量7・5トンの軽戦車「LTvz34」を生み出します。主砲は37ミリ砲と強力でしたが、砲塔は不便な1人乗りでした。

この「LTvz34」を開発したČKD社は、その経験を活かし傑作戦車「LTvz38」を開発します。そう、カメさんチームの「38(t)」であります！ 世界一可愛いとも言われる駆逐戦車「ヘッツァー」もČKD社(後のBMM)の開発です。

さてチェコにはもう一社、スコダという戦車メーカーがあります。スコダが開発したのが「35(t)」としてドイツ軍でも使用された「LTvz35」です。この戦車はギアやステアリング操作を圧縮空気でサポートする独特のシステムを採用した画期的な戦車です！ ただそれゆえ故障も多かったのですが……。

続いてスコダではライバルČKDの「38(t)」に対抗し、「LTvz35」の発展型「T-21」の開発を進めます。しかし、1939年にチェコがドイツに併合されてしまい、開発は残念ながら中断されてしまいます。

知られざる戦車王国ハンガリー

この「T-21」に救いの手を差し伸べたのがハンガリーです。ハンガリーはオーストリア・ハンガリー二重帝国の主要国でしたが、第一次世界大戦の敗北で帝国は崩壊。その領土は大幅に削られてしまいます。

領土回復を悲願とするハンガリーは戦車を積極的に導入。まずイタリアから豆戦車「CV33」を大量に輸入します。続いて1934年、ニコラ



40Mトゥラーン

ハンガリーの主力中戦車、別名「トゥラーンⅠ」。チェコの「T-21」をベースに開発された戦車だが、主砲を40mm砲とし、ハッチが一つだけだった砲塔にⅣ号戦車のような側面ハッチを増設し使い勝手を良くするなどの実戦的な改良が施されている。主砲を75mm砲に強化した「41Mトゥラーン」は「トゥラーンⅡ」とも呼ばれている。

写真提供：グランドパワー（ガリレオ出版）

ス・ストラウスラー殿が国産の試作戦車「V-4」を完成させます。この戦車は重量9トン、回転砲塔に40ミリ砲装備というなかなか立派な戦車でしたが、技術的な問題も多く不採用に……。失意のストラウスラー殿はイギリスに移住し、ノルマンディーで活躍した水陸両用DD戦車の開発をすることになります。

さて「V-4」を諦めたハンガリーは1938年、スウェーデンから「L-60」のライセンス生産権を購入し「38MトルディⅠ」として生産します。この戦車を気に入ったハンガリーは改良型「トルディⅡ」も生産しますが、軽戦車では発展性に限界があり、本格的な戦車の導入が模索されます。

そんな中、第二次世界大戦が勃発。ハンガリーは領土回復のチャンスと捉えドイツに味方し、「Ⅲ号戦車」の輸入を希望します。ですがドイツでさえ戦車が不足していたので、代わりにチェコの「T-21」の生産が提案されました。

こうして作られたのが中戦車「40Mトゥラーン」です。主砲は40ミリ砲でしたが、砲塔を大型化し3人乗りを実現。車体も大型化しエンジンも国産の260馬力に変更したので、ハンガリー・オリジナル戦車と言ってもいい存在です。

1941年、独ソ戦が始まるとハンガリーも参戦を余儀なくされますが、ソ連戦車相手に40ミリ砲は力不足。そこで主砲を75ミリ砲とした重戦車「41Mトゥラーン」の開発が始まります。「トゥラーンⅡ」とも呼ばれるこの戦車は重量19・2トンですが、アンチョビ殿の愛車「P40」同様、重戦車としてハンガリーの期待を担う存在でした。

とは言え主砲の75ミリ砲は短砲身で威力不足。すぐに長砲身の75ミリ砲を搭載した「43Mトゥラーン」の開発が始まります。しかし大型の回転砲塔の生産はハンガリーの技術力では難しく、試作車の完成は1944年6月となってしまいました。

この年の6月と言えばソ連の大攻勢「バグラチオン作戦」が発動され、夏の終わりにはハンガリー国境近くまで赤軍が来襲。新型戦車の導入どころではなくなります。

このためハンガリーではイタリアの「セモヴェンテ」同様、手っ取り早く戦闘力を高めようと車体に105ミリ砲を搭載した突撃砲「40／43Mズリーニイ」を開発します。

ただ搭載したのは余っていた榴弾砲だったので対戦車戦闘力は高くありません。そこで主砲を長砲身の75ミリ砲に換装した「44Mズリーニイ」が開発されますが、戦局悪化により生産されませんでした。

ルーマニアの可愛い駆逐戦車

ハンガリーと同じく半ば強引に独ソ戦に参戦させられたのが隣国ルーマニアです。当初は豆戦車やチェコから輸入した「35(t)」で戦っていたルーマニアですが、1942年から国産戦車の研究が始まります。

しかし農業国だったルーマニアでは戦車の生産は難しく、捕獲したソ連の軽戦車「T-60」をベースとすることに決まります。この辺はフィンランドの「BT-42」そっくりです。

こうして開発が始まったのが伯爵高校も装備する軽駆逐戦車「マーシャル」です。

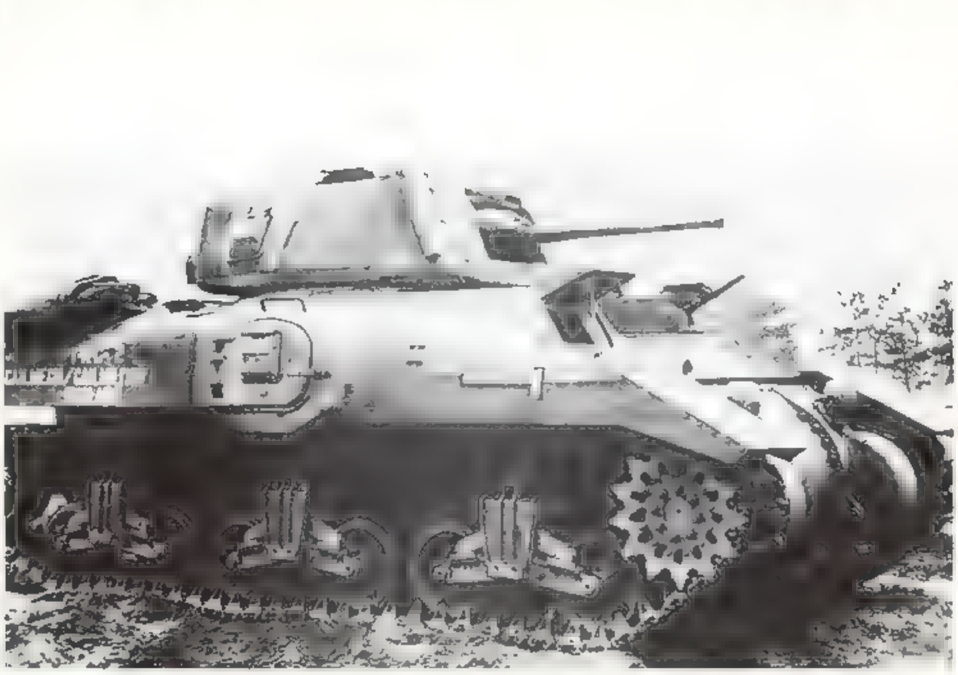
現地語では「マレシャル」とも呼ばれるこの戦車は、車体に75ミリ砲を搭載した無砲塔戦車で、その車体は避弾経始を取り入れた亀のような形だったと伝えられています。なにかを思わせる形ですよね？

さて設計は完了したのですがエンジンや照準器が国産できません。そこで1944年1月、ヒットラーに協力を求めるため「マーシャル」の図面を見せた所、兵器マニアの彼は大いに気に入り全面協力が約束されます。ほぼ同時期に「ヘッツァー」が登場したことから、ルーマニアでは「ヘッツァー」は「マーシャル」が元になった！と言われているそうです。

1944年初頭に完成した試作車はテストも順調で、満足したルーマニアではなんと1000輌もの量産を計画します！　しかし、同年8月にはルーマニアはソ連に降伏、量産には至りませんでした。完成していれば「ヘッツァー」のように活躍していたかと思うと残念でなりません。

カナダのカンガルー？

さてここまで枢軸国側の戦車を見てきましたが、この辺で連合国側に目を移しましょう。



ラム Mk.Ⅰ

カナダが「M3リー」をベースに開発した巡航戦車。約2000輌が生産されたが、2ポンド砲搭載のMk.Iは50輌のみで、ほとんどが6ポンド砲搭載のMk.IIである。しかしどちらも実戦に出ることはなかった。対して「ラム」の車体に25ポンド砲を搭載した自走砲「セクストン」や兵員輸送型の「ラム・カンガルー」は欧州戦線で活躍した。

写真提供：グランドパワー（ガリレオ出版）

まずはカナダの生んだ巡航戦車「ラム」です！

1941年、ドイツの電撃戦によって重装備のほとんどをダンケルクに置いてきたイギリスは、大慌てで戦車の増産を計画。大西洋を挟んだイギリス連邦の自治領カナダでも歩兵戦車「バレンタイン」の生産が始まりました。「バレンタイン」は信頼性の高い戦車なのですが発展性が少なかったので、アメリカから中戦車「M3」の生産が提案されます。

ウサギさんチームの愛車「M3リー」は、北アフリカでイギリスの危機を救った優秀な戦車ですが、せっかくカナダで生産するならイギリス



センチネル AC I

オーストラリアが自主開発した巡航戦車。主砲は6ポンド砲の予定だったがイギリス本国から供与されず、やむなく2ポンド砲を搭載。このため威力不足で生産はわずか66輌で終了してしまう。野砲である25ポンド砲を搭載のAC IIIや17ポンド砲を搭載したAC IVも作られたが、採用されなかった(トラックのエンジン搭載のAC IIは計画のみ)。

好みの戦車にしたい、ということで「ラム」の開発が始まります。

「ラム」は「M3」の足回りを利用していますが、砲塔と車体は新設計で車高は抑えられています。砲塔は鋳造製ですが、砲塔前面は開口し別の装甲板で覆われていました。

これはイギリスの強い要求で主砲に2ポンド砲(40ミリ)を搭載したのですが、威力不足なのは分かっていたので主砲を強化できるようにした工夫です。おかげで6ポンド砲(57ミリ)への換装はスムーズに行えました。

こうして完成した「ラム」ですが、生産が軌道に乗った時にはアメリカの傑作戦車「M4シャーマン」の大量生産が始まり、性能の劣る「ラム」は主に訓練用に回されてしまいます。

これでは勿体ない！ということで作られたのが兵員輸送車「ラム・カンガルー」です。

砲塔を外した車体は11名もの兵員を輸送可能。トラックに比べ格段に安全な車輌は戦場で大好評だったそうです。

この「カンガルー」という名前は、イギリス軍戦車を改造した人員輸送車に対する総称です。元々は北アフリカに送られた「M3」のうち、砲塔が壊れた車体を輸送車に転用したのが始まりで、北アフリカで戦うオーストラリア兵が故国の有袋類を思い出し名付けたそうです。母親の安全なポケットで育つカンガルーの子供に自分たちをなぞらえたのでしょう。

オーストラリアの番兵

カナダ同様、イギリス連邦の有力な自治領だったオーストラリアでも戦車が独自開発されました。これがコアラの森学園の巡航戦車「センチネルAC I」です。ただこの戦車は「ラム」と違い、イギリス本国を助けるための戦車ではありません。

南太平洋に位置するオーストラリアは本国と遠く離れている上、そのイギリスはドイツ相手に手一杯。日本と戦争になった場合に助けが来ないことが心配されました。そこで1940年、自分たちで戦車を開発することが決まります。

当初はアメリカの「M3」の生産が計画されましたが、これまで自動車ですら生産していなかったオーストラリアでは、戦車の車体に使う巨大な圧延装甲板が作れず、生産は困難でした。

そこでフランスの技術者ペリエ殿の力を借りて、マジノ女学院の「ルノーR35」同様に鋳造のパーツをいくつか組み合わせて車体を作成。サスペンションも製造しやすい仏ホチキス製を採用。エンジンも117馬力のキャデラック・エンジンを3基搭載した戦車を製造します。これが「クルセイダー」を彷彿とさせる砲塔を持つ「センチネル」です。

さて太平洋戦争が始まると開発はスピードアップされ、1942年1月には試作車が完成します。名前の「センチネル」は番兵という意味で、日本に対するオーストラリアの意気込みが感じられます。

しかし、アメリカが参戦すると「M4」が大量に供与され、「センチネル」の生産は停止されてしまいました。カナダの「ラム」と同じく可哀想な戦車です。

結局、戦車不足に悩んでいた枢軸国と違い、アメリカという巨大な兵器工場が存在した連合国では戦車を独自開発する意味は小さかったようです。

中堅国が戦車を作る意味とは?

第二次世界大戦後も武装中立を国是とする中立高校、ではなくスイスが「61式戦車」にそっくりな国産戦車「Pz61」を開発。スウェーデンも「Sタンク」を、オーストリアも軽戦車「SK105」を開発します。

また周辺国と敵対しているイスラエルもユニークな戦車「メルカバ」を、北朝鮮と休戦中の韓国も「K1」「K2」を、外国から技術を導入し自国生産しています。

これらは自分の国は自分で守るという中堅国の固い決意を、戦車を作ることで表しているのだと思います。

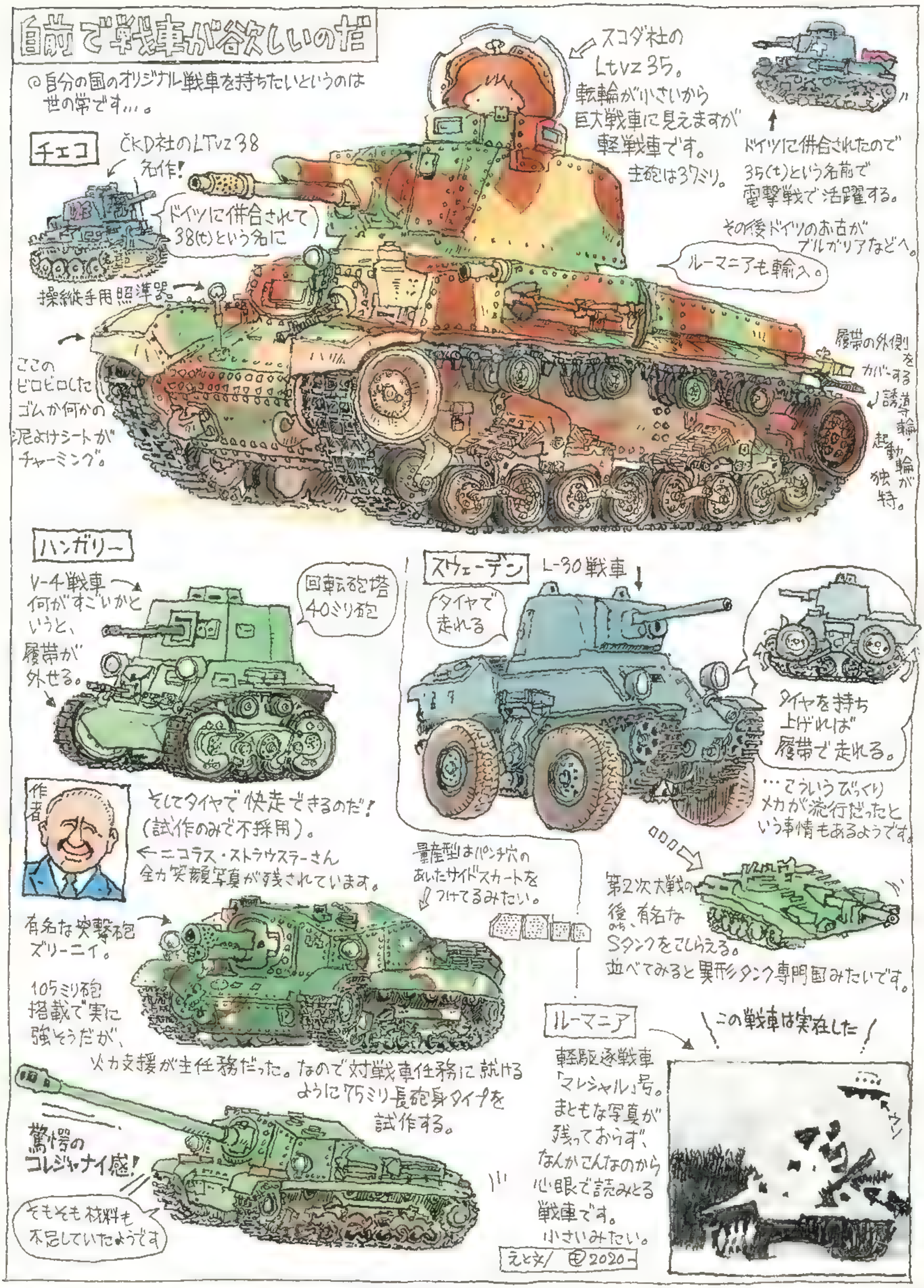
あぁ、今回は紹介したい戦車が多くてページが足りず、大好きなポンプル学園の「7TP」や青師団高校の「ベルデハ」を紹介することができませんでした。また別の機会にご紹介できればと思います。それではまた次回の戦車講座でお会い致しましょう！



Pz61

スイス国産の戦後第2世代戦車。砲塔は当時の主流であった丸みのある形状で避弾経始に優れている。同時期に登場した日本の「61式戦車」と比べると、主砲に105mm砲を搭載し、エンジンと変速機を一体化したパワーパックを採用するなど一歩進んだ戦車である。主砲に安定装置を搭載した改良型の「Pz68」も生産されている。

写真提供：グランドパワー(ガリレオ出版)


自前で戦車が欲しいのだ
◎自分の国のオリジナル戦車を持ちたいというのは世の常です…。
チェコ
ČKD社のLTvz38 名作!
ドイツに併合されて38(t)という名に
操縦手用照準器。
ここのビロビロしたゴムか何かの泥よけシートがチャーミング。
スコダ社のLtvz35。転輪が小さいから巨大戦車に見えますが軽戦車です。
主砲は37ミリ。
ドイツに併合されたので35(t)という名前で電撃戦で活躍する。
その後ドイツのお古がブルガリアなどへ。
ルーマニアも輸入。
履帯の外側をカバーする誘導輪・起動輪が独特。
ハンガリー
V-4戦車 何がすごいかというと、履帯が外せる。
回転砲塔40ミリ砲
そしてタイヤで快走できるのだ!(試作のみで不採用)。
作者
←ニコラス・ストラウスラーさん 全力笑顔写真が残されています。
有名な突撃砲ズリーニイ。
105ミリ砲搭載で実に強そうだが、火力支援が主任務だった。なので対戦車任務に就けるように75ミリ長砲身タイプを試作する。
驚愕のコレジャナイ感!
そもそも材料も不足していたようです
量産型はパンチ穴のあいたサイドスカートをつけてるみたい。
スウェーデン
L-30戦車
タイヤで走れる
タイヤを持ち上げれば履帯で走れる。
…こういうびっくりメカが流行だったという事情もあるようです。
第2次大戦の後、有名なSタンクをこしらえる。
並べてみると異形タンク専門国みたいです。
ルーマニア
軽駆逐戦車「マレシャル」号。まともな写真が残っておらず、なんかこんなのから心眼で読みとる戦車です。小さいみたい。
この戦車は実在した!
えと文/ ㊞2020

世界のミリタリー博物館探訪記

MILITARY MUSEUMS AROUND THE WORLD

『ガールズ＆パンツァー』の作品制作に関わった方の、世界のリアル戦車を訪ねた思い出を語ってもらう博物館紀行。第2回目の案内人は、『ガルパン』ファンの間では「フィンランド先生」としてお馴染みの齋木伸生さんが登場！

今回の案内人 齋木伸生



PROFILE 『ガールズ＆パンツァー』においては、劇場版から登場した継続高校に関係する、フィンランド関連の監修を担当。『最終章』ではフランス戦車に関する資料提供や監修を行う。本来はソ連・フィンランド関係、フィンランドの安保政策の研究を行う。また、ミリタリー専門誌において、フィンランドやソ連の戦史、戦車、戦跡の紀行なども執筆している。

ソ連に侵略されたフィンランドは自国を守るために戦った。そこに感銘を受けましたね。

杉山　齋木さんは「フィンランド先生」と呼ばれていますが、なぜフィンランドに興味を持ったんですか？

齋木　武田龍夫さんの『北欧の外交』という本を偶然手にして、初めて第二次世界大戦中のフィンランドの歴史を知り、あまりの出来事に感動したんです。ミリタリーに関しては、10歳の頃からタミヤのプラモデルを作っていたんですが、昔はドイツ軍の戦車を作っているだけで「軍国主義」とか「平和の敵」というようなことを言われていて。そんな中で、フィンランドの戦いは、ソ連に侵略されて、そこから国を守るために戦ったことを知り、それならば大義があると思ったのがきっかけですね。

杉山　他のヨーロッパ諸国だって侵略戦争をしている中で、フィンランドだったら大手を振ってのめり込めたわけですね。

齋木　そうです。魅せられたというんですかね。「冬戦争」と呼ばれる独立を守る戦いがあまりにも凄かった。ソ連を相手に孤立無援で戦って、勝ってはいないですが、負けずに大損害を与えているんです。戦車が無い状況で、歩兵で戦車と戦っているんですから。

杉山　ドイツとも組みましたよね。

齋木　それは、その後の継続戦争ですね。これもまた難しくて、ドイツと組んで、兵器の供給を受けて戦っていましたから。第二次世界大戦ではソ連とドイツが戦う中で、イギリスやアメリカはソ連側で、フィンランドを助ける国はどこにも無くて、助けてもらわないとソ連に侵略されて終わり。そうなると、継続戦争ではドイツと組むしかなかった。

杉山　ある種、悲劇的な国ですよね。

齋木　そうなんです。でも、すごく賢い戦い方をしていて。マンネルヘイムという指導者も素晴らしくて、早くからドイツが負けることを見越しながらも、ドイツと手を切ると大変なことになるのでうまく扱いながら戦っている。ヒトラーを相手に腹芸ができる人間はなかなかいないですよね。また、小国が決断を誤ると国が無くなることも理解していて。ドイツが強いうちに反旗を翻すと潰されてしまうので、弱くなるのを待ち続けたんです。そういう部分も惹かれましたね。

杉山　フィンランドを専門に勉強をし始めたのはいつからですか？

齋木　大学は経済を勉強していたので、国際政治や歴史を勉強するのに大学院に入り直して、その後フィンランドを専門にするようになりました。ちゃんと学問として学ばなければ、ただの趣味になってしまいますからね。

杉山　そうやって本格的に研究をする中で、なんで戦車に興味を持つようになったんですか？

齋木　プラモデルから軍事に入っているので、もともと戦車には興味があったんです。ただ、私は研究に関しては、軍事を扱ってはいますが、あくまで国際政治がメインなんです。だから、戦車はあまり関係が無い……というか、趣味なんです。研究じゃないですね。フィンランドはフィンランド、戦車は戦車であって、まったく別なんです。

杉山　でも、戦車もかなり詳しいですよね。

齋木　私は、1980年に「ホビージャパン」で、ドイツ戦車を作って載せてもらってライターデビューしているんです。その後、20年以上模型はずっと作っていて、今はもうやっていませんが、プロモデラーでもあったんですよ。

杉山　モデラーであったことが、戦車のディテールまで細かく調べ上げる素地になったということですね。

齋木　そうですね。ある意味、フィンランドのこととフィンランド戦車が明確に結び付いたのは、『ガルパン』が初めてかもしれないです。フィンランド軍の話はしていましたが、フィンランドの戦車に関しては大して活躍もしていなかったので、語ることが少なかった。もちろん、フィンランド戦車の知識の素地はありましたが、自分の専門とフィンランドの戦車がしっかりと結び付いたのは『ガルパン』ですね。

杉山　フィンランドに初めて行ったのはいつ頃だったんですか？

齋木　1990年にパロラ戦車博物館に行ったのが初めてですね。モデルグラフィックスが主催して、戦車に乗って操縦させてもらうツアーがあって。これは参加して良かったですね。T-26に乗せてもらった。でも、あくまで趣味です。この時、フィンランドに行ったのは、ソ連戦車を見るためで。当時、ソ連は今のように開かれていなかったので、ソ連戦車をちゃんと見ることができる場所はフィンランドしかなかったというのは大きいですね。モスクワ中央博物館にもある程度戦車があるんですが、見ているだけでもチェックが厳しくて。裏側に回って写真を撮ったりすると「何をやっているんだ」と注意される。その点、フィンランドは自由に見ることができる環境になっていたんですよ。

杉山　BT-42もその時に撮影したんですか？

齋木　そうですね。その時に撮影できたのも運が良かった。今のBT-42はずっと野ざらしで展示されてきた影響で、かなり壊れてしまっているんです。

MILITARY MUSEUMS AROUND THE WORLD

あの時に撮っていなかったら、資料はもっと少なかったと思いますね。

杉山 パロラ戦車博物館は、どこが見所になるんですか？

齋木 先ほど言った通り、ソ連戦車が充実していますね。フィンランド軍は鹵獲したソ連戦車を使っていたので、ソ連戦車のバリエーションが揃っている。T-26、T-38、T-60といった軽戦車から中戦車まであって、さらにT-50という戦車も保存されているんですが、これはフィンランドとロシアにしかないので貴重ですね。T-34ももちろんあります。こういうのは、昔はパロラじゃないと見ることができなかったんですよね。それから展示されているものは、全部フィンランド軍が使ったものであるということが凄いんです。博物館というのは、教育的な機関としてコレクションしている側面が多いんですが、全て自国で使ったものが飾られているというのはここくらいしかないですから。

杉山 パロラ戦車博物館は、『ガルパン』が始まってから日本人が多く行くようになったという話ですね？

齋木 最初の頃は「なぜか日本人が来るね」みたいな感じだったんですが、普通の観光で来る場所じゃないですからね。

杉山 ファンはチューリップハットを被って、カンテレ弾いている写真を撮ったりしていて、普通の戦車博物館に来る客とは異なる感じかと思いますが、それはどのように受け止められていたのでしょうか？

齋木 最初は奇異な目で見られていたようですが、『ガルパン』というものが存在することが伝えられてからは面白がられていたという感じですね。それが向こうの新聞にも報道されたりもしたんです。その後、パロラ戦車博物館の車輌のほとんどが野ざらしだったので、クラウドファンディングでお金を集めて屋根を付けようという動きがあったんですが、お金が集まらずに頓挫しそうになって。そこに日本のファンがたくさん参加してくれて、結果的にクリアできまして。フィンランド以外で、一番寄金額が多かったのが日本で、それも向こうでは話題になって新聞に取り上げられることになりました。こうしたことも『ガルパン』があったおかげですね。さらにその結果、『ガルパン』の作品のための取材に関しても、さらに協力的になりましたね。漫画家の野上武志さんもたくさん寄付されたというのも聞きました。

杉山 いい話ですよね。パロラ戦車博物館以外には、どこへ行かれましたか？

齋木 私がヨーロッパで訪れているところというのは、ほぼ戦跡か博物館なんですよね。それに関しては、ヨーロッパ中の細かいところもいっぱい行っています。大きいところで言えば、イギリスのボービントン、ドイツのムンスター、ロシアのクビンカ、そしてモスクワ中央博物館。それ以外にも砲兵博物館というのがサンクトペテルブルクにあるし、フィンランドにも砲兵博物館というのがあるので、そういうところにも行っています。

杉山 『ガルパン』に関わるようになってから行った博物館はどこですか？

齋木 フランスのソミュール戦車博物館ですね。ここは、BC自由学園が登場するということで、彼女たちが使う戦車の取材をさせてもらいました。ソミュア、ルノー、ARL44などですね。特にARLは資料が足りない状態だったということもあって、内部も含めてたくさん写真を撮らせてもらいました。

杉山 なぜフランス戦車を担当することになったんですか？

齋木 私は変な国の変な戦車が好きなんです。あと小国も好きで。フランスは小国じゃないだろうという意見はあると思いますが、戦車に関しては小国扱いで。「マイナー」好き。

杉山 フランスの戦車はマイナーですが、大国として優秀な戦車を作っていましたよね。

齋木 確かに、第二次世界大戦が始まった頃は優秀な戦車を作っていたんですが、あっさりドイツに負けちゃって、その後の歴史が無いんですよね。日本のモデラーや戦車ライター、評論家などで、フランス戦車をやっている人がいないんです。だから担当したという部分はありますね。

杉山 ソミュール戦車博物館の特徴は何ですか？

齋木 戦車を動かすというのを先見的にやっていたことですね。パンターやティーガーIIもすでに動かしていて。ソミュールには貴重なドイツ戦車がたくさんありますね。この博物館を作ったオーブリーという人は、1944年の夏に18歳のいち兵士でフランス解放の戦いに参加して、戦場の装甲車の墓場に感銘を受けて、そこにある車輌を1輌ずつでもいいから保存できないかと考えた人なんですよね。もちろん、敵国であるドイツ戦車の墓場にも感銘を受けて。オーブリーさんはフェアな精神を持った人だったからこそ、ドイツ戦車もきちんと保存されているんだと思いますね。

杉山 齋木さんのことは以前からお名前は知っていたんですが、学究肌で軍事研究のような堅い本に堅めのレポートを書いているような印象だったんです。でも、こうしていろいろと話を聞いてみると同世代で、多分同じようなことをやっていた。アニメもすごくお好きだったり。そういうところで、親しみをすごく感じています。もちろん、作品に関してもいろいろお世話になって感謝もしています。今後も、フットワーク軽くあちこちに動きまわるという感じですか？

齋木 そうですね。海外は色々と行っているんですが、国内はほとんど行ったことが無くて。『ガルパン』のおかげで、国内もあちこちに行くようになった部分はありますね。継続高校は石川県の学校なので、金沢あたりでイベントをやってもらえれば、ぜひ行きたいと思っています。

フィンランドのこととフィンランド戦車が明確に結び付いたのは、『ガルパン』が初めてかもしれないです。



聞き手
杉山 潔

PROFILE 『ガールズ＆パンツァー』アソシエイトプロデューサー。

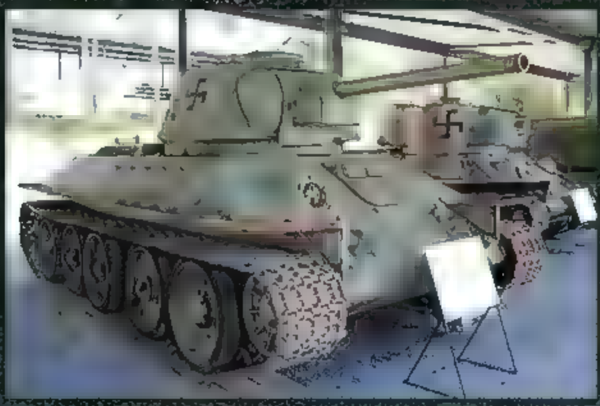
パロラ 戦車博物館

Panssari museo

フィンランド中南部にあるパロラ戦車博物館。かつて、ソ連戦車の情報が限られていた時代には、ソ連戦車を見るためにファンはここに足を運んだものだった。一昔前のフィンランドブーム、そして『ガールズ&パンツァー』の継続高校人気によって、「フィンランド戦車」を見るために、日本から多くのファンが訪れる場所となった。折しも劇場版公開しばらく後に、同博物館では展示場に屋根を付けるためのクラウドファンディングが行われ、日本の多数のファンからも寄付が寄せられた。写真は屋根が架けられた後のもので、現在ではさらに建屋を取り囲む壁の建設が進められている。



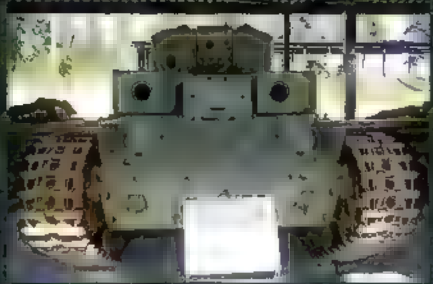
『ガルパン』ファンからすれば、プラウダ高校の戦車ということになろうか。ロシアのT－34/75 1943年型である。向こう側にはやはりプラウダの戦車のT－34/85が見える。





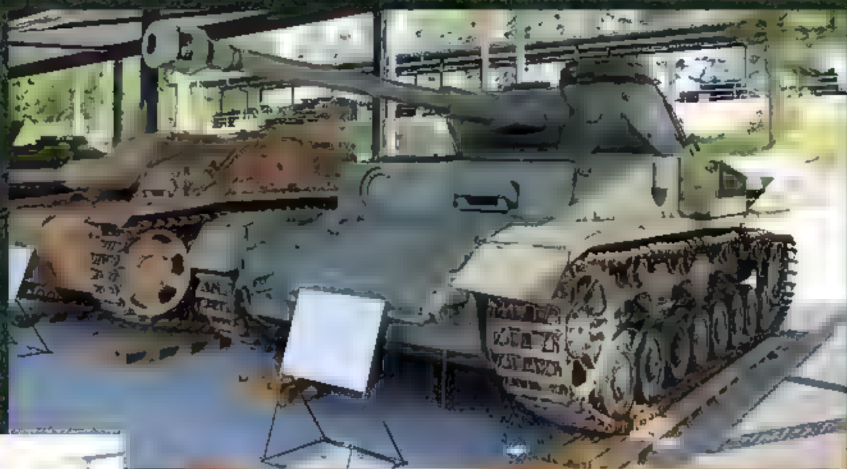
継続高校ブームを創った立役者BT－42。パロラにしか存在しないレアな車体だ。そもそもフィンランドで18輌作られただけ。実はクラウドファンディング当初は屋根の下に入る予定ではなかったのだが、日本のファンの熱い要望でこうして安置されることになった。

『ガルパン』では、戦車ノートに出て来ただけのT－28だ。同じT－28でも大学選抜の戦車とは違う。主砲塔に加えて機関銃塔を持つ、いわゆる多砲塔戦車である。





フィンランド軍の主力T－26。ソ連軍から多数捕獲して使用した。パロラでもソミュール同様、戦車のレストアには力を入れており、このように自走できる車体も多い。





戦前フィンランド軍が装備した、ヴィッカーズ6t戦車。冬戦争では出動したものの、あまり活躍できなかった。ソ連はライセンスを獲得、T－26として生産、発展型を作った。



継続戦争ではフィンランドは、ドイツから兵器の供与を受けた。装甲兵器の主力となったのは、このIII号突撃砲であった。ちなみに大洗女子学園の車体はF型で、こちらはG型である。継続戦争末期のカレリア地峡の戦いで、奮戦してソ連軍をくい止めた。

ソミュール戦車博物館

Musée des Blindés de Saumur



フランス中南部にあるソミュール戦車博物館。世界の戦車好きにとっての聖地である。最近、と言ってももうずいぶん経つが、かつての基地に併設されていた場所から、旧市街南西数キロの現在地に移った。旧タバコ工場だった場所で、工場で使用されていた建物が展示館に転用されている。以前の博物館よりは、敷地面積、展示場面積ともに大きく拡大し、戦車の展示環境ははるかに良好となっている。戦車博物館と言えば戦車が立錐の余地なく並んで写真が撮りにくいのが相場だが、ずいぶん撮りやすくなった。と言いたいところだが、展示場はすでにいっぱいの戦車で埋まりつつある。

ガールズ&パンツァーファンにとって一番気になるのはARL44であろう。少数作られただけの貴重な車体だ。ソミュールの車体の外観はきれいだが、内部までは修復されていない。

世界に誇るフランスの戦車博物館！



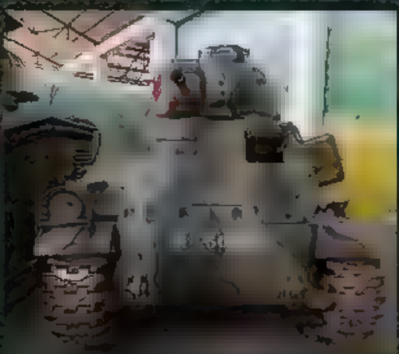




第一次世界大戦中に開発され、その後の世界の戦車の雛形となったルノーFT。フランスの誇りと言うべきだろう。とくに第二次世界大戦でいいところの無かったフランスとしては[illegible]許可を得て中に入らせてもらった。



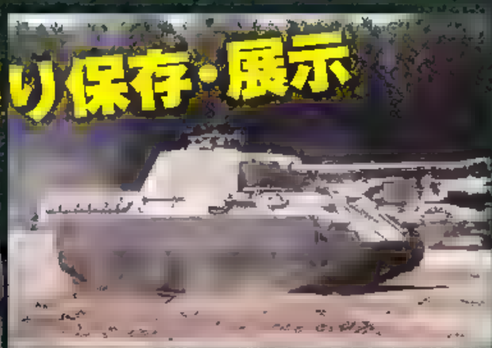
ルノーB1bis。こちらはBC自由学園でなく大洗女子学園の車体だ。ソミュアS35とよく似た砲塔形状を見比べるのが良かろう。背が高いわりに幅が狭く全長が長い。主砲と砲塔が前寄りにあってやけにエンジン室が大きい。このアンバランスさも魅力なのかもしれない。



ソミュアS35。こちらもファンにはおなじみの車体だろう。出現当時、世界最良の中戦車と言われた。丸みを帯びた独特のデザインがかわいい、と言ったらおかしいだろうか。



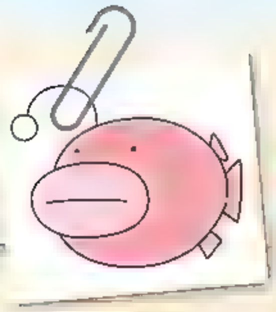
ドイツ戦車もしっかり保存・展示







ソミュール戦車博物館と言えば、これまでならドイツ戦車、というのがファンの常識で、屈指のドイツ戦車コレクションを誇る。



Girls und Panzer Event Report

ガルパン・イベントレポート

2019年から2020年の1年間も、「第22回 大洗あんこう祭」や「大洗春まつり 海楽フェスタ2019」、『最終章』第2話 初日舞台挨拶など多数のイベントが開催されました。今回も、熱気が溢れるイベントの中からピックアップ！

『最終章』第2話 初日舞台挨拶

2019年6月15日、ついに『最終章』第2話の全国劇場上映がスタート！ 公開1週目と2週目にかけて、初日の15日には東京、翌日の16日には大阪と岡山、翌週の22日には茨城、23日には神奈川の全国5箇所の劇場にて、なんと合計18回にも及ぶ舞台挨拶を敢行！ 各会場は大いに盛り上がった。



第1回目の舞台挨拶の会場となったのは、新宿バルト9。西住みほ役 渕上舞さん、武部沙織役：茅野愛衣さん、五十鈴華役：尾崎真実さん、秋山優花里役：中上育実さん、冷泉麻子役：井口裕香さんに加え、園みどり子役：井澤詩織さんが出演した。



BC自由学園の本拠地、岡山の劇場でも初の舞台挨拶を開催。岡山名産の桃ポーズで記念撮影を行った。渕上さんに加え、マリー役：原由実さん、安藤役：津田美波さん、押田役：安済知佳さんが出演。



大阪では計3回の舞台挨拶を行った。岡山の桃ポーズに続き、大阪ではたこ焼きポーズで記念撮影！

第22回 大洗あんこう祭

大洗で開催される秋の恒例イベント「大洗あんこう祭」。令和初となるあんこう祭は、2019年11月17日に開催され、来場者数が14万人（主催者発表）を突破！ 8回目となるガルパンキャストトークショーには、今年もあんこうチームの渕上舞さん、茅野愛衣さん、尾崎真実さん、中上育実さん、井口裕香さんの5人が全員集合。さらに、『最終章』第1話～第3話の主題歌を担当している佐咲紗花さん、ガルパン応援大使、大洗大使である蝶野正洋さん、そして、サプライズゲストとして知波単学園の福田役の大空直美さんも登壇し、ステージは大盛り上がりとなった。



大洗春まつり 海楽フェスタ2019

大洗の春の一大イベント「大洗春まつり 海楽フェスタ2019」は、2019年3月17日に開催。『最終章』第2話の劇場上映直前ということで、キャストトークショーには、渕上舞さん、河嶋桃役：植田佳奈さんに加え、BC自由学園のマリー役：原由実さん、安藤役：津田美波さん、押田役：安済知佳さんが登場！ 大洗初上陸となったBC自由学園キャストの3人が、イベントに駆けつけたファンの数に圧倒される一幕も。収録が終わったばかりの『最終章』第2話のアフレコの裏話、第2弾キービジュアルや来場者特典の発表など、新情報も多数公開された。



ガルパントークショー in こうち旅広場

高知でのガルパンイベントが、2018年に続く形で実現！ 2019年1月26日にこうち旅広場で開催された。今回も、歴女チームとカバさんチームのカエサル役：仙台エリさん、エルヴィン役：森谷里美さん、左衛門佐役：井上優佳さん、おりょう役：大橋歩夕さんが参加。この日のために特別に作られたガルパン鳴子を持って記念撮影。トークショーの後には、TOHOシネマズ高知にて『最終章』第1話の舞台挨拶も行われた。



『最終章 4D ～第1話＋第2話～』マスコミ向け完成披露試写会

『最終章』第1話と第2話を繋げて4D化した『ガールズ＆パンツァー 最終章 4D ～第1話＋第2話～』のマスコミ向け完成披露試写会が2019年9月26日に開催。渕上舞さん、植田佳奈さん、原由実さん、津田美波さん、安済知佳さんが上映後の舞台挨拶に登壇した。ガルパンと相性抜群の4D上映ということもあり、見どころや期待ポイントについてのトークで盛り上がった。



『最終章』第2話BD版宇宙最速上映会&キャストトークショー

2020年2月27日に発売となった『最終章』第2話のBlu-ray&DVDの発売に先駆け、実際に収録されるいわゆる「BD版」の宇宙最速上映会が2020年1月20日に行われた。トークショーには渕上舞さん、原由実さんに加え、知波単学園 西絹代役：瀬戸麻沙美さんが登壇。3校の隊長キャストが集合し、BDの特典内容や、自宅で『最終章』第2話を楽しむポイントなどをテーマに語りあった。



年末生配信番組 生でたらたら焼かせて♥～タイヤキもあるヨ♪～

年末恒例となったガルパン生配信番組が2019年12月27日に配信された。中上育実さんと、アヒルさんチームの磯辺典子役：菊地美香さん、近藤妙子役：吉岡麻耶さん、河西忍役：桐村まりさん、佐々木あけび役：中村桜さんとスタッフ陣が出演。劇中に登場したたらし焼きやタイヤキを食べながら、大喜利企画や2019年の1年を振り返るトークを行った。



大洗海の月間イベント 艦艇公開 in 大洗

2019年7月6日～7日に大洗港第4埠頭にて開催された「大洗海の月間イベント 艦艇公開 in 大洗」に中村桜さんが参加。護衛艦「ゆうぎり」の一日艦長に就任し、ガルパントークショーも行われた。



ガルパン秘密の部屋2019

2019年12月14日、ホテル テラス ザ ガーデン水戸にて「ガルパン秘密の部屋2019」が開催された。軍事監修の齋木伸生さんによる魅惑のフランス戦車トークと、尾崎真実さんのトークショーを、クリスマスディナーとともに楽しめる豪華なイベントとなった。



アクアワールド大洗トークショー付きイベント「華さんを探せ!」

2019年12月15日には、昨年に引き続き、尾崎真実さんを招いたトークショー付きイベントが開催。尾崎さんのガルパントークショーと、水族館を貸し切って行われたスタンプラリーという、2本立てでイベントで盛り上がった。



乙女の戦車占い

牡羊座 Aries (3/21~4/19)

活動的でエネルギッシュ、目的に迷わず進む即実行型の牡羊座のあなた。クルセイダーMk.Ⅲで運気UP! 突然格言を言う人とはちょっと距離をおいてみて。



ラッキー戦車 クルセイダーMk.Ⅲ

牡牛座 Taurus (4/20~5/20)

マイペースで穏やか、用心深くて美的感覚が鋭い牡牛座のあなたの恋愛運はちょっと荒れ模様。チャーチル歩兵戦車の防御力に頼って乗り切って。ラッキードリンクはコーヒー。



ラッキー戦車 チャーチル歩兵戦車

双子座 Gemini (5/21~6/21)

好奇心旺盛で情報通、学習能力とコミュニケーション能力が高い双子座のあなた。乗員が多いMk.Ⅳで出会いを探してみよう。ステキな出会いがあるかも。



ラッキー戦車 Mk.Ⅳ

蟹 座 Cancer (6/22~7/22)

人情に厚く、感受性が豊か、そして身内をいたわって守り抜く強さを持つ蟹座のあなた。リーダーシップを発揮すべき場面で、フレンドリーファイアをしてしまいそう。ちゃんと謝まらないと運気が下がってしまうかも。



ラッキー戦車 Ⅳ号戦車H型(D型改)

獅子座 Leo (7/23~8/22)

パワフルで力強く、リラックスしていても堂々とした雰囲気を持つ獅子座のあなた。カール自走臼砲の火力を使って、パワープレイで押していけば、勉強も恋愛も大炎上! 万事うまくいくはず!



ラッキー戦車 カール自走臼砲

乙女座 Virgo (8/23~9/22)

几帳面で勤勉、頭の回転が早くて先読み能力に優れる、実務能力に長けた乙女座のあなた。機動力の高い九五式軽戦車で気になるカレをドライブに誘ってみて。おすすめのデートは森林浴。



ラッキー戦車 九五式軽戦車

天秤座 Libra (9/23~10/23)

人当たりが良くてフレンドリー、まわりとの協調性がありながら、正義感も強い天秤座のあなた。M4シャーマンで旅行に出かけてみては? 素敵な出会いがある予感。



ラッキー戦車 M4シャーマン

蠍 座 Scorpio (10/24~11/22)

情が深くて一途でひたむき、勘が鋭く、スペシャリストタイプの蠍座のあなた。Ⅲ突の回らない砲塔に悩むより、恋も戦車道も信地旋回がオススメ♡



ラッキー戦車 Ⅲ号突撃砲F型

射手座 Sagittarius (11/23~12/21)

自由気ままで、自分の興味情熱のおもむくままに行動し、精神的な価値を大事にする射手座のあなた。BT-42で風に流されてみて。どんなトラブルが起こっても、きっとあなたなら大丈夫。



ラッキー戦車 BT-42

山羊座 Capricorn (12/22~1/19)

責任感が強く、用心深くて計画的、地道な努力を怠らずに粘り強く行動する山羊座のあなた。インドアになりがちな時は、軽快に乗りこなせるCV33でお買い物。たまに散財するのが女子力アップの秘訣です。



ラッキー戦車 CV33

水瓶座 Aquarius (1/20~2/18)

個性的で進歩的な面と自分の考えを頑なに守り通す頑固な面を持ち、さらにユニークな印象がある水瓶座のあなたはヘッツァーで彼氏をアンブッシュ! 短期決戦で彼氏のハートを撃破するのが吉。



ラッキー戦車 ヘッツァー

魚 座 Pisces (2/19~3/20)

感受性が強くて情にもろく、共感能力があってまわりに尽くしていく魚座のあなた。近々"ここぞ"という場面がやってきます。そんな時にはポルシェティーガー。キーワードは「昼飯の角度」。



ラッキー戦車 ポルシェティーガー

月刊戦車道 別冊 第41回冬季無限軌道杯 大特集号

企画
杉山 潔
鳥居 玲
大竹亮輔

制作
鈴木一彦
船橋善大

宣伝
日高雄大

編集・執筆
田村尚也
石井 誠

執筆・編集協力
鈴木貴昭
国本康文
齋木伸生
吉川和篤
稽谷富美夫
モリナガ・ヨウ
中村公彦

写真提供
グランドパワー(ガリレオ出版)

カバー・本文デザイン
原田美穂(OverDriveDesign)
浜岡弘臣(OverDriveDesign)

協力
アクタス
博報堂DYミュージック&ピクチャーズ
和田道子
大洗町商工会
大洗町の皆さま

発行日 2020年3月23日
発行人 清水博之
発行所 株式会社バンダイナムコアーツ
〒150-0013
東京都渋谷区恵比寿1-18-14
恵比寿ファーストスクエア
印刷所 株式会社テンプリント

【お問い合わせ先】
バンダイナムコアーツ お客様センター
TEL:03-5828-7582
受付時間 午前10時から~午後5時
(土・日・祝日及び年末年始を除く)
[公式HP]www.bandainamcoarts.co.jp

TU-1023


これより『戦車道大作戦!』を開始します
毎月新衣装の生徒が続々登場♪
3月はホワイトデー衣装!
ガールズ&パンツァー
GIRLS und PANZER
戦車道大作戦!
アプリダウンロードはこちら
Download on the App Store
GET IT ON Google Play
amazon appstore
auゲーム
AndApp
公式サイト
https://garupan-app.com/
公式Twitter
@garupan_app

ガールズ&パンツァー
GIRLS und PANZER

月刊 戦車道 特別編集 月刊 戦車道 別冊
第41回 冬季無限軌道杯 大特集号

●発行：財団法人 日本戦車道連盟 Tel.1000-100-5050
●編集：月刊戦車道 編集部
●発売・販売元：株式会社バンダイナムコアーツ

TU-1023

